建築ト社會

第五輯　第八号



八月ノ頃

大正十一年八月一日

日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員タラントス希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歴書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ニ於テ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

終身賛助員―金參百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

二　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

三　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

四　賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記載ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會ノ之ヲ推薦ス

終身賛助員タラントスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラントスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歴書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラントス欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ會内ニ於ケル其言行ニ付會外ニ於テ責ヲ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ除名ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ノ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名（理事長タル理事ヲ含ム）

四　理事　十名

會頭ハ本會ヲ總監シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十一條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選舉ス但會頭、副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

理事長ハ理事之ヲ互選ス

役員ノ任期ハ二年トス　但シ理事長ニ付テハ一年トス

理事ノ改選ハ毎年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十二條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主記　一名

二　主計　一名

三　編輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長、理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トス但スコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ毎月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキハ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ハ會務ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諮詢事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　決議事項ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的ノ建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾八圓ヲ本會ニ醵出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金貳百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助員年額金九圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員年額金六圓本會ニ前納スベシ

但六期以内ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

本會ノ財產債權債務及毎月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

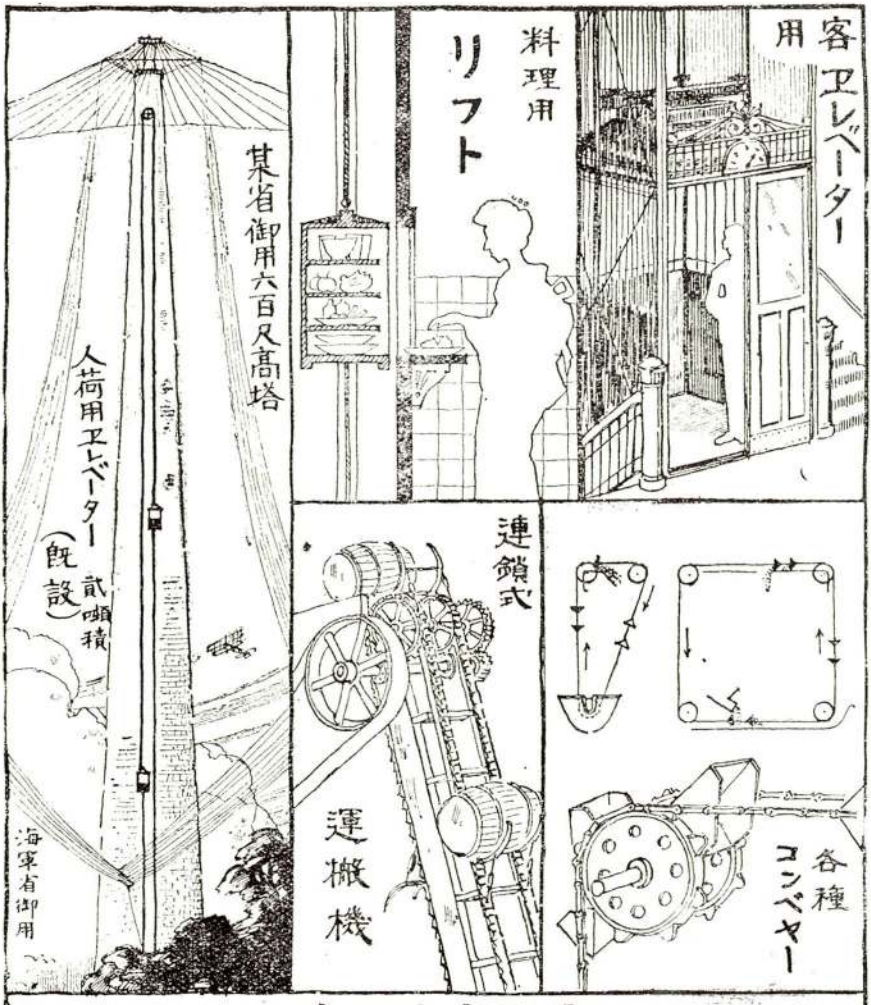
本會ノ財產債權債務及毎年ノ收支ハ理事會ニ於テ決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本邦エレベーターの權威

（專賣特許六件）



大阪東區玉造

㊥日本エレベーター製造株式會社

電話・南三八〇五番・南五四三五番

建築と社會　第五輯第八號目次

△口繪……（三色版）
〇八月の頃……（寫眞版）
〇Y氏の新邸……

〔卷頭〕

□都門を出でず……

〔論說〕

□災害防止と建築物の改善……日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安……二
□住宅問題と住宅敷地に關する考察……大阪北港株式會社支配人　村上庸吉……七
□現場工事管理に就いて（三）……會員　本田登……一二
□私は住宅問題を斯う考へます……市立大阪高等商業學校教諭　法學士　伊藤眞雄……一七

〔研究〕

□建築物の內外に於ける日射關係並に「サナトリウム」建築上の應用に就いて（三）……京都大學醫學部　醫學士　富永孟……二一
□美術工業の諸問題……川村種三郎……二九
——建築裝飾としての美術工業品に就いて——

□鐵筋コンクリート其の日その日(六)　會員工學士・增田清・三六
〔都市〕
□市俄古貨物運搬用地下電鐵に就いて・工學士　清水熙・四五
〔住宅〕
□Y氏新營の邸宅・・・・・・・・・・・・・・・・・・それがし・五一
〔資料〕
□大阪に於けるビルディング細見(下)・・・・・・・・華城閑人・五七
〔漫錄〕
□東京建築だより(三)・・・・・・・・・・・・・・・文學士・黑田鵬心・六七
□幼稚園の保育と建築物から見たる幼稚園(上)・小田切平和・七二
□文化村住宅の記事に就いて・・・・・・・・・・・・・建築士・津田鑿・七七
□西歐をめぐりて・・・・・・・・・・・・・・加島銀行頭取星野行則氏夫人・星野須磨子・八一
○時報　○會報
〔附錄〕
□住宅改造博覽會記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

繩田式 エレベーター

型錄進呈

技術優秀!!
價格低廉!?

多年研究ト經驗トヲ重ネタル結果全ク外國品ヲ凌駕スル完全ナル繩田式裝置ヲ完成シ多大ノ好評ヲ得ツヽアリ能的作業ニ依リ特ニ低廉ニ供給ス

繩田式エレベーター各種
繩田式コンベヤー各種
石川式安全索道
各種捲揚機械
其他輸送機械專門
設計製作工事請負

大阪市西區市岡町八九番地

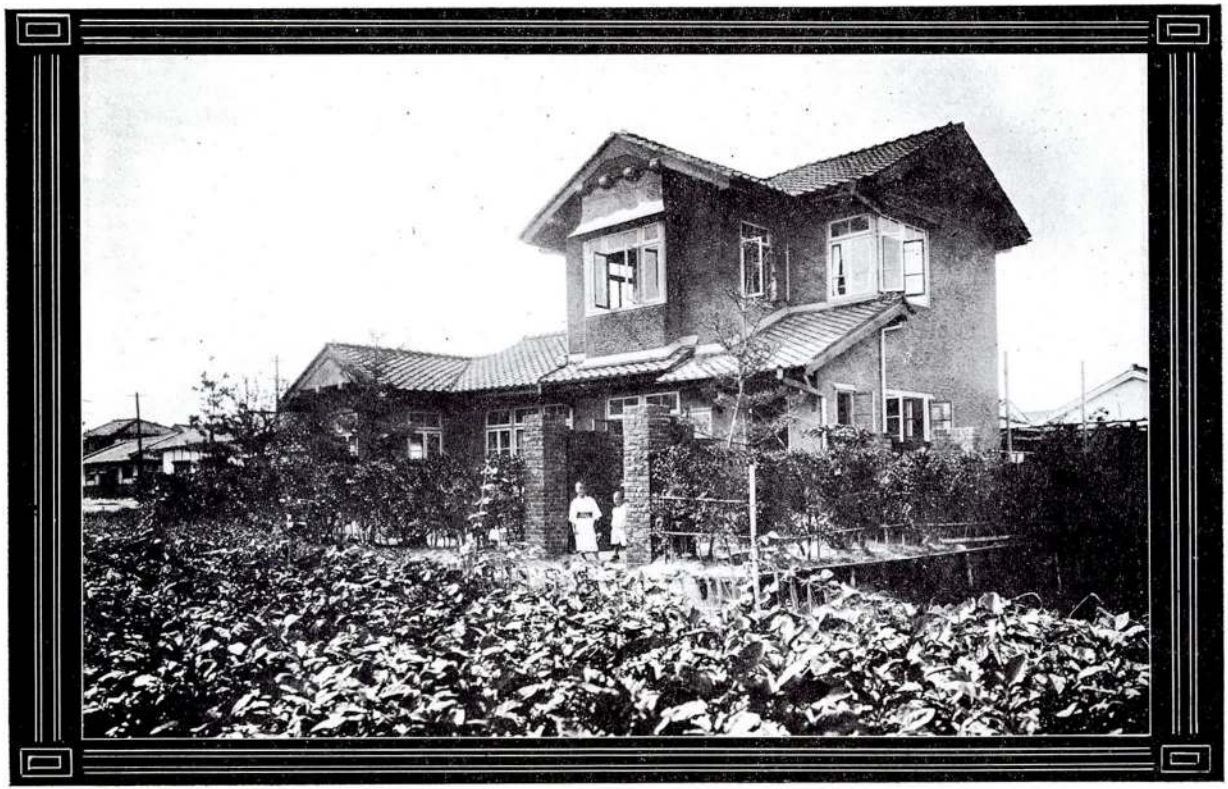
日本コンベヤー製作所

所主 繩田竹一

電話西九三六番

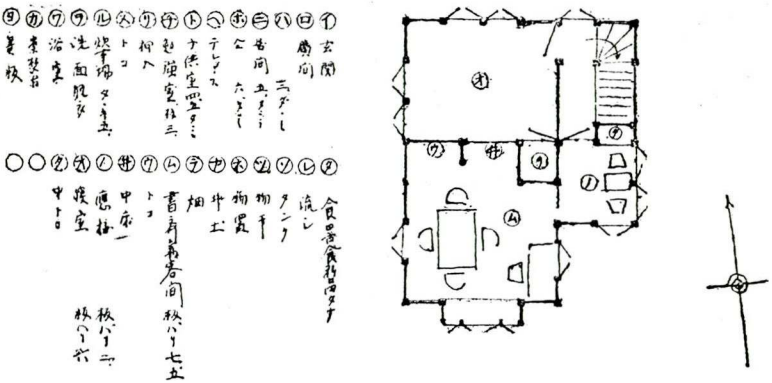
最近繩田式採用先

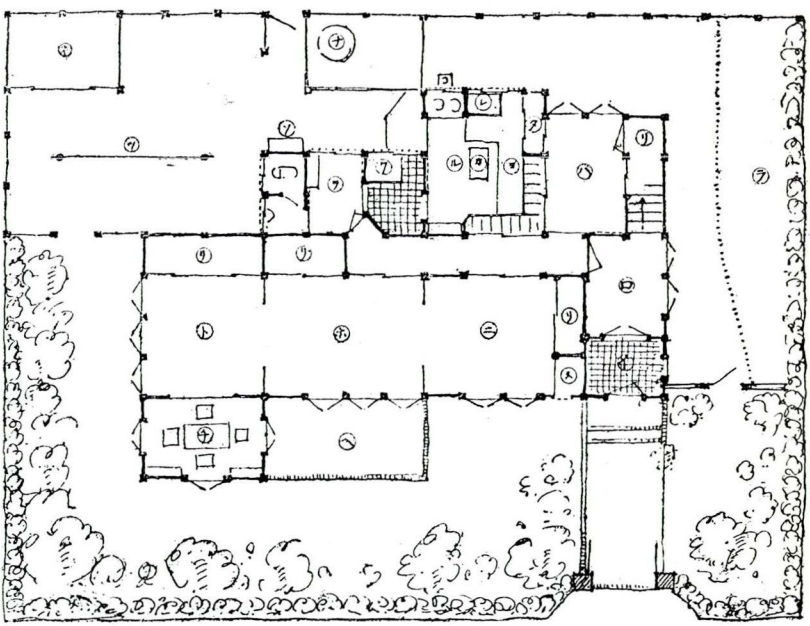
株式會社多木製肥所　森永製菓株式會社　父井原金山鑛業所
日本航空運動株式會社　甲陽土地株式會社　信貴生駒電氣鐵道株式會社



Y 氏新營の邸宅

（本誌『住宅欄』參照）





其二

住宅改造博覽會開催に就いて

我日本建築協會ハ方今ノ世情ニ鑑ミ本年秋季ヲ期シ住宅改造博覽會ヲ開催シテ聊カ社會ニ貢獻スル所アラムトス。

抑モ我國住宅改善施設ニ就テハ二重生活ノ苦痛ヲ脫却セム爲近年一般社會ノ輿論漸ク勃興シ來リ生活改善ノ運動ト共ニ眞摯ナル研究ニ入リツツアリ從ツテ住宅改善ノ問題ハ最早論議ノ時期ニ非ズシテ實行實現ノ時代ナルコト既ニ識者ノ唱導スル處タリ本協會ハ玆ニ觀ル處アリ前後三回ノ懸賞募集ヲ斷行シ其ノ優秀案ヲ參考トシテ改良住宅ノ成案ヲ實現シ一般公衆ノ觀覽ニ供ヘ且我建築界ノ現狀ヲ紹介シ以テ將來ノ向上促進ニ寄與セントスルノ目的ニ依リ玆ニ住宅改造博覽會ノ擧ヲ企圖シ着々其ノ準備ニ從事シツヽアリ翼クハ本會會員賛助員各位ノ熱心ナル御後援ト懇切ナル御賛助ニ依リ本會ノ斯ノ目的ヲシテ着實有意義ナル事業タラシメムコトヲ熱望ス

大正十一年八月

日本建築協會



都門を出でず

韁鞚の響き、水煙、巖頭を覃めて、晶氣、人に逼る。

都門、九十幾度の暑熱、蝟瑣恒に絕へざる大事小故、斯る雄偉の「自然」に瞑合幽想して、姑く塵中の生活を脫するは、必ずしも、都門一步を出づるを要せず曰く「滾心頭火猶不熱」。



論說

災害防止と建築物の改善

日本建築協會副會頭　工學博士　片岡安

〔一〕

安全第一或は災害防止の運動は最近の科學應用の進歩が齎らしたる人類の幸福增進畫策の一大要綱であることは言ふまでもない。而して其運動は火災、震災、水害、疾病、盜難は言はずもがな、交通事故工場作業上の傷害、其他日常生活上の些少なる各事項に至るまで其範圍の大なること殆んど數へ切れぬのである。故に其改善運動たるや到底之を一律に取扱ふ譯には行かないのである。けれども大體之を二樣に分類して考へる事が出來る。即ち個人的注意の行屆くことによりての防止を一とし、建設改善の防止を以て其二とする。個人的即ち人事的に用意周到なる練習を爲し以て災害の防止をなすことは近來長足の進歩をなしたのであるが、今此處にはそれを論ぜぬことゝし、主として建設改善による災害防止に就きて少しく述べて見たい。

災害防止は之を生命の損傷と財産の損害との二方面より見るを要する。又更に之を直接と間接との表背より觀察せねばならぬ。而して之を社會的に見る時は其防止運動は實に總ての社會政策の上に超越しあらゆる善政の根源であることは言ふまでもない。然るに世の現狀推移に甘んずるの徒は人生の災害防止を以て左程重大なる意義あるものと考へず。唯皮相的に個人的の注意により災害を避けんとするに止まるは寔に痛嘆に値するのである。最近我京都大學に於て災害防止に關する綜合的の講座を設けんとするの議ありと聞き、吾人は其成績の如何を憂ふるに先ち、斯かる學界の態度が社會の現狀推移論者を刺戟してその覺醒を促がすに効あるを喜ばざるを得ない。

〔二〕

人生の災害中最も恐るべきものとして取扱はるゝ震災と火災に對する防備は主として建築物の改善によりて其目的を達するのである。又直接間接の傳染病の襲來と都市民の健康狀態低下の傾向は公共下水道及上水の普及と建築物内容の改善によりて其災害を防ぎ得るのである。然るに之を唯個人の注意や一時的の消毒等の姑息手段により取扱はんとする我國の現狀は全く現代の科學應用の文化生活を理解せざる態度と見ねばならぬ。我民衆の不幸此より大なるはない。幸にも我都市計畫法及市街地建築物法に於ては我六大都市の重要なる地區に防火地區の制を布くべく强制し、其建築物の構造に制限を加ふることゝなつたのである。而して此等の制限は先づ我六大都市に於て行はれ漸次中小の都市にも及び都市の災害を大に輕減することであらうと思はれる。唯其實際を見る時に一般都市民の無自覺の甚だしきと當事者の其法の運用餘りに遲々たる爲めに此等の重大なる災害防止政策も未だ何等具體的にその効力を發揮するに至らぬのを遺憾とする。

歐米の都市に於ては都市の中部に於て之を防火地區として其建築に嚴重なる制限を加へ、其郊外地帶

と雖も或る程度の構造制限をなすを例とする。殊に下水道の設備なき都市は殆んど之を見出し得ないのである。然るに我國の都市は、その防火地區の制定も決定せざるのみならず、近來漸くその制定を急ぎつゝあるものも都市の僅少なる一部に之を限定せんとするやに傳へられて居る。又系統ある下水道に至つては六大都市中一も之を有せざるやうな現狀である。

建築物の改善は文化の進展上各方面よりの要求であるけれども、その最も急切なるものは什うしても災害の防止であると見るを至當とする。美觀とか利便とか或は經濟上の色々の要求、慣習上の必要等は建築物を構成する主要條件である。併しながら更に其等を超越したる最大條件は人命と財產を保護することでなくてはならぬ。古來我國に於て震災及火災が與へた人命及財產の損害は莫大のものであつて、最近に至るも未だ、その事情は繼續しつゝあるので決して改善されて居ないのである。唯小部分に於ては最近多少改善された點はあるけれども、大局に於て我大小都市の建築物は維新前のそれに比して何等優れる點あるを見ない。多少改善された部分あれどもその惡化された部分と相殺すれば誇るべき進歩は少しも之を見出し得ないのである。即ち災害防止の大目的より見て我大小都市の建築物は依然として舊態の脆弱無價値のものと大差なく、吾人の安寧幸福を增進するには甚だ不充分のものである。

〔三〕

過去の慘澹たりし我都市の災害は今此處にそれを繰返すの暇なきも、その經驗に徵して現在及將來に亘る災害の程度を推察することは必ずしも無用の仕事ではあるまい。過去三百年間中の江戸大火或は大阪及京都の大火は遠くも十年に一回近きは三年に一回の割合にて其都市の財產の可なり大きな部分を盡盡したのであつて、其損害の莫大なりしことは約を想像するに難くはない。而して最近の火災は如何なる程度に吾人に損害を及ぼして居るか、左の統計によれば稍其程度を知り得るのである。

	罹災建坪	罹災度數
明治四十年	九一五、九一九	一六、三一七
大正元年	七〇八、九八五	一八、〇五四
同二年	一、二二七、六五〇	一八、六九六
同三年	六一七、九四六	一七、八八三
同四年	五六二、一六四	一六、四七五
同五年	五一〇、八四一	一六、二三八
同六年	六八八、四五六	一七、〇一二
同七年	六〇二、三六三	一三、四〇一

その直接損害は三千萬圓以上五千萬圓と積られて居るけれども其間接損害に至ては直接損害の數倍に達するは見易き道理である。以上の損害はそれ自身可なり大きな不安と活動の澁滯とを招來するのであるが、更に吾人の大に憂ふるところは近き將來に遭遇すべき可能率を有する大都市の大火である。我國に於ては最近は毎年一萬六七千回の火災度數を示すのであるから其の中の僅かに一回が颶風に際會せんか、而してそれが或る都市の中樞區に發生せんか、其都市の運命は全く祝融の爲めに飜弄され莫大の損害は遂に經濟的生命を一時中斷するであらう、而してその復舊は到底望み難いかも知れぬのである。若しそれ斯かる恐るべき大災害の可能性を考ふる時は、吾人は如何にしても其不安を感せずには居られぬのである。而して都市が大きくなればなる程其罹災の可能率が增加しその損害の度と不安の度は益々高まるのであるから、我主要なる大都市の市民は將來其不安の度を益々深く感ずることであらう。今にしてその對應策に考へ及ばざる我都市民は自から不安の窮境を求めつゝあるものと言はねばならぬ。歐米の都市が夙に其防火に注意し其密集生活に於て最も恐るべき其災害を防止すべく彼等の建築改善は或は

法令により或は火災保險業者の强要により或は更に進んで建設者の先見により着々實現しつゝあるのは蓋し當然の徑路であつて、我國の如き都市民の無自覺の狀態はむしろ甚だ不合理のことと言はねばならぬ

〔四〕

震災の場合を考ふる時は我都市民の不安は火災のそれよりも更に一層深刻のものであることは此處に敢々するを要せぬのである。近くは濃尾地方を震源とせる明治二十四年の大震災の如き或は少しく遡りて安政二年の江戸大地震の如き、同元年の近畿地震の如き、何れもその當時は震源地附近の人心を惱倒せしめた程の慘狀を呈したのである。而して此等程度の地震は百年內外を週期として我國の各地に襲來するは殆んど明かなる推定理であつて見れば、其災害を全然免がれ得る途はないとしても、其罹災の程度を輕減するだけの準備は絶對に必要である。然るに現在我國民のそれに對する態度は如何、先づ大體に於て其準備に無關心であることは爭ふべからざる事實である。古來地震に對する災害防止の方法は難事中の難事であつた。今日に於ても矢張り可なり困難の事柄である。然しながら之を輕減することの技術は非常に進步したのであつて、建築物の建設に際し之を防火構造であると同時に相當耐震的のものたらしめることは識見あるものゝ已になしつゝあるところである。乍併震災に對する防止運動を一般に理解せしむるは火災に對するそれよりも更に困難である。そはその襲來の火災よりも頻繁ならざるによる然しながらその慘狀は火災のそれよりも更に甚だしきに鑑みて火災に對するよりもより多くより十分にその防止又は輕減の準備をなすべく宣傳せねばならぬのである。

近來安全第一と稱へて交通事故の取締を嚴にし、工場內の傷害輕減を提唱するもの稍多く、或は火災輕減の方法として個人の生活に其火元の注意を喚起しつゝある等は、消極的ながら一種の災害防止運動であるから大に之を歡迎すべきではあるが、其根源たる積極的の建築物改善による其防止策を全く等閑に附しつゝある態度は所謂枝葉に走りて根本を忘るゝものであると言ふべきである。都市行政の責に任ずるものは固より、世の所謂先覺者を初め一般市民の大に覺醒すべきことではないか。

住宅問題と住宅敷地に關する考察

大阪北港株式會社支配人　村上庸吉

住宅問題としての敷地の問題

住宅に關する問題は、素より單一でなくして、諸般な方面を有するも、之を要約すれば、等しく住宅の問題と雖も、其中には、住宅自體の質に關するもの、即ち構造又は樣式等に關する問題と、住宅の供給又は住居地境に關する處の、謂はゞ住宅政策に關する問題との二つがある。今此處には、後者即ち住宅政策に關するものゝ內、住宅地の選定を主として述ぶることゝする。

現在、各地に營まれつゝある處の、中流程度の住宅を觀るに、其住宅地の選定に於て、甚だ遺憾を覺へしむるものが多い、と自分は信ずる。即ち、一言にして之を云はゞ、それ等住宅地の選定は、殆むど何等合理的な根據なきものである、と云つて差支へない。蓋し、一地方に於ける文明都市の事業に携はる人々の餘り不便なき距離に在りて、交通の利便といふ事を第一の要條と做し、次に、衛生其他の文化的設備を其地に施され得べき狀態に在りや否や、といふ事を條件として、先づ大阪の中心を考ふれば、北濱附近より中之島の上部市廳附近であるが、將來は、稍北方と西方にあると想ふ。今日で云はゞ、大約、公會堂附近、市役所界隈を起點として、是から距離を算定するのが相當と考へられる。而して其交通機關は、三十分乃至五十分を以て斯の中心地に達し得られるを相當とし、一時間以上の距離は少し多う過ぎる。扨て、斯うした上に於て、適當な土地を考へねばならぬ、けれども、單に交通機關に於て上述の條件を具備してゐる許りでなく、更に第二の條件として、其地域が一團な住宅を形成するの餘裕あ

ることを要すると同時に、約一千戸を下らざる底なものでなくてはならぬ。蓋し、聚落的住宅地に伴ふ當然な施設である處の、上下水道の設備、敎育、醫療等の機關・物資供給の方法、集會所又は倶樂部の設備等も、其一團地を經營してこそ、初めて、住宅地としての眞價値を有するのである。斯る施設を、其住民又は團體の力で出來得ないならば、住宅地としての價値は零である。由來、大阪近郊に於ける大部分の住宅地は、只、天然の景が佳いといふような事にのみ重きを措かれて、それを、住宅地選定の第一條件と做し、其他の條件に到りては、殆むど閑却されてゐるの實狀である。素より、住宅地を勝景な境域に選定するのも必要事には相違ないが、それよりも尙ほ勝つて生活に密接なる業務上の關係利用の方法、一般の保健的設備、其他凡ゆる文化的施設こそ、直接に生活其ものを Control する關係に在る。然るに、日本の郊外は、天然の景勝の外何ものもない。卽ち、今日の郊外生活の實際は甚だ非文明にして、偶々住宅敷地として良好なものあるも、それは、概して、孤立してゐるか、周圍の狀況甚だ不可なるか、或は、交通の不便、下水の不完全、夜間婦女子の出入に可ならず、乃至は、兒女に對する學校以外の敎育機關に缺け、使用人を得るに極めて困難を感じ、其他急病等の場合に於ける醫療の方法なく、要するに、生活に必要な條件の備はらず、又は其條件具備の可能性をも有し居らざるに拘はらず、唯天然の可なる事を以てのみ住宅地たらしむる如きは、寔に暢ん氣千萬なり、と謂はざるを得ない。又社會政策の見地から考へても、分離したる住宅卽ち各所に孤立して、其間に何等の聯絡なき狀態に在る住宅地は、居住生活の集團として殆むど何等の意味を成さない。要するに、自分の住宅觀は、一團の地が、凡ゆる方面に於て、文化的生活に適合する諸要件を具備する事、都會を離れた住宅の一團體が、少くとも普通の生活に差支へなき程度の設備を爲し得る性能を備へたときに於てのみ文明的生活をなし得る、斯の條件を要望するのである。隨つて、自分は、世間の人達に對し、今少し實際的に家族の生活要件に適合せる住宅地を選定したりや否や、を問ひ度い、恐らく、現在の所謂郊外住宅地の多くが、其然らざ

るを答ふるの外はあるまい。斯る條件を具備せしむるには、其地境に於ける居住者共同の力に俟つか、或は特殊なる事業家の力に頼るか、幷は、必ずしも區別するの要はない。唯斯の場合、其地境に斯る設備の行はれ得るや否やの一事に在る。

生活の要約と都市計畫　是れ敷地問題の第二

次に、住宅地の問題に關聯して考ふべき事は、其居住者の生活を成るべく簡易に、而して或るだけ冗費を節するの共同的機關を設くる一事である。是は、差當り、彼の『購買組合』の如きものを相當とする。我國に行はるる購買組合の現狀は、必ずしも殷なりとは云へないが、其設置を各所に見得られる。而して今後全國に增々多數な設立を見なければ、中產階級の生活は、現在の物價と生活形式の煩縛とを以てして、到底耐へ得る事ではない。而して、從來、購買組合の左まで効果を見得ないものゝある所以の一つは、要するに、組合員即ち消費者の範圍——或は距離——が餘りに廣過ぐるに在る。斯の點から云つても、消費者が或る地域に纏つてゐることは、購買組合の成効する所以である。其他、住宅地の選定と其文化的施設として考慮すべき諸多の案件を有するであらうが、所詮は、斯る條件に於て、出來得べくば國家が英政府の採りたる如き徹底した住宅政策に力を致し、望み得べくば、世の資本家は勿論、中產階級の人達が或團體を作つて、經營を自らするなくば、住宅問題は到底解決し得ない、と自分は信ずる。殊に、住宅建築と都市計畫との關係を考へてみても、今の如き蕪雜な建て方と敷地選定の無方針な遣り方では、都市計畫の將來、決して輕視し得ない結果を產みはしないか。現に、東京でも、例へば田端附近とか芝の區域外、其他凡ゆる處に無雜作に建てられつゝある住宅は、只家といふ許りで、其處に住家としての理想的な條件を充たすべく用意を拂はれてゐないものが多い。斯くして、唯徒らに廣がり行くだけでは、都市計畫の將來に種々なる障碍を來すこと、必ずしも杞憂ならざるべきを信ずる。事の序だが、元來、自分は、今の都市計畫の區域なるものに就いて、實は聊か贊同し能はないのである。縱令ば

その區域が比較的隘いにしろ、豚小屋のようなものを數方里に渉つて包容してゐる都市計畫區域なるものは、餘り感心出來得ない。徒らに人間罪惡史の頁を增すよりも、寧ろ、新しい經營を以て新しい都市を作り、數よりも質に於てなすべきではあるまいか。

地代の問題も研究を要する　敷地問題の第三

話は聊か横道へ外れたが、要するに、住宅の敷地に就いての研究は、所謂住宅問題を解決する一要項としての關係を有する。單に以上の條件許りではなく、今一つは地代そのものの研究を要する。蓋し、地代は或程度に於て生活と一致すべきものなるが故に、地價の問題をも、住宅問題の一要項と做さなければならぬ。元來は各自が土地を所有することの甚だ不可なる如く思はれるが、さりとて、直ちに土地私有を是非するのではない。地價と地代と、住宅と生活と、斯う關係を辿つてみれば、住宅敷地は國民生活と離されない關係に在るから、國民も此の邊に自覺を有ち、立法的に之を解決すべきではあるまいか。國民それ自らに於てする許りではなく、國家の經綸を行ふ上に於ても、是に關する大政策の必要がある。隨つて、是を奈何にすべきか、奈何にせば可なるか、互に研究したい。以上の問題は、主として都市に多くの關係を有してゐるが、其他近代の都市生活に關する問題に就いては、國家として、市其ものとして、種々に立派な施設もあり又種々な計畫もある樣ではあるが、他面に於ては、案外不用意な處もある。本當な生活と調和されてゐない點も多い。一般に日本人は、或る命令の下に於て、紀律とか訓練とかいふ事に服するけれども、自發的に、又團體的に、そして之を組織的に遣ることは、能力の低いといふ大缺點を有してゐるように想はれる。之を自治政に觀ても、地方自治制度の布かれて以來數十年の今日、今尚ほ多くの點に幼稚なるかの感を免れ得ないのは、其適例の一つである。住宅問題の如きに於ても然りで、何時までも又何も彼も、權力者に依頼するでなく、自ら遣つたらよいのである。

敷地を制限することも亦

敷地問題の第四

終りに、過般來實施されたる『市街地建築物法』及びその關係法規等に於て、敷地と建物の關係を制限されたのは、寔に結構な次第だと自分は思ふてゐる。併し、少々物足りなく思はれる事は、主もに市街地に於ける或一戸の敷地の廣さを或程度まで制限されるならば、と自分は考へてゐる。元來、大阪都市のような場所へ一人で廣い敷地を有し、廣い住宅を有つことは、都市政策の一つとして大に考へてみなければなるまいと思ふ。理想として、市内は百坪位、市外ならば其何割を增す、といふような制限を附したらば怎麼ものであらうか。それと共に、各戸が障壁を拵へて割據するのは、最早時代に適しない。日本は天然の景に於て、大概な處可ならざるなきであるから、斯の自然の景物を共に楽むようにしたらばと思ふてゐる。（文責在記者）

○龍の落ちし畑見に行くや雲の峯

○湧きかへる田毎の水や雲の峯

現場工事管理に就いて（三）

會員　本田　登

（六）、單位工費統計

工事施工計畫に基き必要なる各種職工の配給各種工事器械の充分なる設備により、施工を進めたる場合は其計畫のもとに完成せられたる工事の出來高を日々測定し、工事監督者は其結果を統計に圖表し、工事計畫技術者又は管理者に毎週又は毎月報告せねばならぬ、管理者は此報告に依て一見工事の進捗を窺知すると同時に、各工事場よりの報告の比較調査に依て施工計畫の良否を査斷し、更らに此圖表より實施單位工費を算定し、豫定工費と比較したる上施工の改善を如何になすべきやを研究せねばならぬ。此方法は『コストキーピング』（cost-keeping）なる調査科目によりて其目的を完全に達することが出來得る『コストキーピング』の必要なることは今更贅言を要しない、一般に事業經營者は勿論建築工事施工者に於ても之れが應用及實行は當然必要條件でなければならぬ。

單位工費を統計的に測定するにあたり、其實行上特に注意を要する點は、

一、工費測定に關する單位及び範圍を定むること

二、工事の條件によりて工費測定統計を區分すること

三、完全なる書式（Forms）を作製し測定上の便宜と誤謬を最小限度ならしむること

凡べて工費を測定するには豫め單位を定めねばならぬ。例へバ『コンクリート』の如きは立壹坪を單位とし煉瓦積工事の如きは壹千個を單位と定むるが如き之れ普通の方法である、又工事の件條によりて

調査の範圍區域を種別せねばならぬ。即ち『コンクリート』工事にありても其條件の如何に依て工費に差異を生ずるものである。例へば地形『コンクリート』の如き同一の場所に比較的多量の『コンクリート』を打ち立つる場合と床『コンクリート』の如き比較的小量のものを、同一回積に打ち了る場合とは材料の單價は同一なるべきも、其勞銀に於て著るしき單價を異にするは勿論の事である。其他の一例として煉瓦積工事に於ても壁厚薄き間仕切壁を積上ぐる場合と器械臺煉瓦積の如く、多數の煉瓦を一ヶ所に積み上ぐる場合とは自ら其勞銀に差異を生ずるは之れ又明白であらう。以上は同一工事の條件的分類の二、三の例であるが、又他の方面より次ぎの條件をも測定統計上大に考慮を要するものである。即ち施工場所の地理經濟的條件（Local-condition）の調査又は工事期間の長短季節の關係等によりて、其工費測定を比較研究するが如き之れ又大に必要なる條件である。

完全なる書式の制定は完全なる統計を圖表し得らるゝものである。且つ測定者に於ても僅少の時間に之れが表示をなし得らるゝと同時に、管理者に於ても比較調査研究を容易ならしむるとは勿論である。

以上略述したる單位工費測定・統計の表示及び調査は實行上相當の困難と測定上の注意を必要とするものである。例へば道路工事、鐵道線路工事又は敷石工事の如きは出來高延長間數又は面坪を單位として連日其結果を統計に表示し得らるゝと雖も、鐵筋『コンクリート』工事の如きは單に數日間其工事の工程によりて、全體に渉る工費を測定し得らるゝものではない。何故ならば此種の工事は構造上部分的に『コンクリート』の容積及び鐵道の噸數を著るしく異にするからである。又假枠工事に就ても同樣の事を云ひ得らるゝものである故に、此種の工事にありては連日の工費を測定し置き、然る後平均實施工費を算定し比較研究すべきものである。

單位工費測定によりて吾人は左の如き便宜と利益を擧げ得らるゝものである。

一、經營者又は管理者は常に工事の部分的工費を容易に知り得ると

二、經營者又は管理者は單位工費測定によりて各其條件を異にする工事の工費を比較調査し施工上の欠陷並に施工計畫の良否を判定し又之等の改善を計り工事の進捗を求め得らるゝこと

三、工事施工中時々實施工費を測定し得らるゝに依り無益の勞費を省き事業の損失を輕減し生産を過剩ならしむること

四、單位工費の測定によりて實施工費を算定し得らるゝに依り其統計圖より正確なる見積の資料を求め得らるゝこと

(七)、仕事の出來高に對する報酬

米國の土木技師『シレット』氏の著書 Cost-keeping and Management Engineering の卷頭に工事管理の拾則を記述し其一部に仕事の出來高に對する報酬の仕拂に關して同氏の意見を述べて居る其要點を記せば。

凡そ賃金仕拂の原則は成就された仕事の出來高に比例すべきもので、此原則は經濟的生産の基礎となるべきものでゐらう。米國勞働組合の規定賃金率を基準とし、作業時間に對する金額を算定して仕拂ふが如き方法は職工、即ち勞力供給者に取つて其個人間の才能手腕、並に仕事に費せる『エネルギー』の如何には全然無關係と云はねばならぬ。況んや一定の時間に成就されたる仕事量の比較等には殆んど考慮せられない。

故に此賃金制定方法に依る時は、次ぎの如き弊害を來すことは免かれぬ、即ち職工の作業振りは一般に惰氣を帶び自己の仲間(gang)の內にて尤も怠慢なる作業を爲す職工を標準として、作業する傾向に誘導さるゝものである。且つ又其怠慢なる職工は仲間の休息の發誘者でなければならぬ。

以上の如く職工は作業上彼等の勞力供給は出來得る限り、小量ならしめんとする野心又は巧名心を有

するが故に、一方雇主に於ては例へ仕事の出來高は當然割增の賃金を仕拂ふべき場合と雖も、之れを見認むるとを斥け、又は出來高に對する割增賃金或は特別報酬の請求に接すれば勿論これを拒絶するであらう。

職工賃金制定（wage system）の方法は完全なる仕事の成就に對して、個人の剩餘を殺減するものである。米國に數多き賃金制定の方法に依て、組織されたる勞働組合（Labor union）は以上の諸點より考察するも決して完全なる團體組織とは見認められぬ。彼等は當然仕事の出來高制限未熟職工の保護仕事の量の多寡、及び勞働作業の難易には無關係にて組合の規定賃金の要求、自己の組合の勢力を保護する爲め、他の組合又は組合に加入せざる職工長の指揮のもとに作業するを拒むが如き何れも實際問題として社會の批難は免かれぬものである。

賃金制定の方法は以上に互りて其概略を說明したるが如く、仕事の量を增す上に於て多々弊害を生ずるとは明白な事實である。然れども此『ウエージシステム』は必ずしも職工賃金の騰貴を促す事に於て兩者の間に關聯的欠陷を有するものなるや否やに就ては容易に斷定し難い、即ち米國に於ては現今の高率なる職工賃金は或る一部組合排斥論者の主張するが如く、職工組合賃金制度の結果又は勞働者を中心とする種々の自然的原因に基くものとして解譯を下すは正當なる說と見認むるとは出來ぬ、何故ならば現今の勞働者は、人力を節約する爲めの種々の器械的施設には殆んど反對的態度を示さぬ事に依て、窺知するとは出來得るであらう。

最近米國に於ける事業經營管理者は、職工に依て成就された仕事の出來高に比例して制定賃金以外に割增の報酬を給與するの種々の方法を研究し、之れを實際問題として應用する樣になつた、此方法は經濟的に生產を高むる上に尤も必要と見認むる賞與付きの方法（Bonas system）の應用に依て、其目的を達し得らるゝものである。之れに依て種々の異なる條件の下に定められたる、報酬の給與は新しき人生

の賃借權を受け且つ又彼等は勞力供給者としての價値を分充に發揮することが出來得るであらう。而して此方法は將來に於て益々研究され其應用は著るしき進歩を來すであらう。

(八)、報酬の仕拂

報酬と罰金(Reward or Punishiment)の方法は工事施工上實際問題として之れを應用する場合は其時期及び程度に就て大に考慮を必要とするものである。而して此應用は一般に人間の行爲行動を決定する上に一種の刺戟を與ふるものである。

報酬は罰金方法の應用は其取扱方法としては、尤も迅速に行はれねばならぬ。之れ即ち此法則を運用する上に尤も主要なる條件である。前項にて述べたる『ボーナスシステム』の應用に依る報酬の仕拂は迅速に行はれざる場合は例へ組織上の機關は完全なりと雖も管理者は其政策を當然誤まるものと云はねばならぬ。

『ボーナスシステム』の運用に於て失策を招ぐ實例は報酬の分配が迅速に行はれざる場合である。之れ即ち職工に報酬の眞僞と作業上の不安を顧慮せしむる結果に外ならぬ。

智識階級の人々は、兎に角特に勞働者級階に於ては、迅速なる報酬の仕拂は一層の要條件であらう。一般に勞働者は終日の苦役より得たる收入、並に報酬の額の最も多きを以て得意氣にするものである。故に彼等は昨日の報酬の額を知りて、今日の勞働に着手する場合は一層の努力によりて、一層多額の報酬を得んと努むるであらう。之れ即ち迅速なる報酬の仕拂に依る結果なるべきも之れに反して、其報酬は一週間後又は一ヶ月後に於て仕拂はるゝ場合は、其間徒らに報酬額を想像するに苦しみ且つ此等の報酬は果して約束通り行はるゝや否やの眞僞に對する不安を抱き、仕事に對する努力を却て緩漫ならしむる傾向を來すは之れ當然と云はねばならぬ。

故に經營者又は管理者は此點に特に留意 其應用の時期及び程度を尤も有効ならしめ報酬の迅速なる仕拂に依て生産を最大ならしむることを企劃せねばならぬ。(未了)

私は住宅問題を斯う考へます

市立大阪高等商業學校
教授　法學士　伊藤眞雄

○住宅問題は相當に賑はつてゐるようですが、實際は、まだ斉う弘く考へられてゐないように想はれます。ほんとうの處は、識者の或る範圍と、實務家の或る階級の人達位しか、そう眞劍に考へてゐないように見受けますのは、わたくしの癖が目でありましようか。

○まあ、試みに、中流以下殊に下流に在る人達に就いて、住宅に對する理想と迄は行かずとも、實際、住宅に關してどれ程な要求を有つてゐるか、といふ事を訊いたならば、恐らくは、抽象的に住宅難をこそ嘆つかも知れませぬが、住宅其ものに對する要求——多少な理想化されたる要求といふものを有つてゐないと、わたくしは信じます。

○斯る實狀は、確に、現代の住宅問題の解決に就いて、まだ〳〵遼遠な將來を有する原因の一つを成すものではないでしようか。即ち、住宅に對する無理想と無理解、一口に云はゞ『住む』といふ事は、必然にして普遍な要求である、斯の自然の事實を充たす意慾位なもので、其「住む」事を理想化して、自己の生活にぴたりと合ふようにする、其要求といふものを、まだ一般に有たれてゐないようであります。

○從つて、忌憚なく云はゞ、今の住宅問題の研究なるものは、恰當、個人價値に醒めてゐない國民を、其生活の指導者として、爲政家乃至は或階級の人達が、あれでもない斯れでもないと、臍を煎る樣に、多くの人達は、時代の流れと共に、住宅問題が種々な形態を取りつゝ逼り來るも、寧ろ、拱手して成り行きを眺めてゐるのが、現在の實狀であるように想はれます。

○日本に於ける中流以下の住宅が、其補給といふ關係に於ても、又は其改善といふ意味に於ても、それが凡ゆる階級、凡ゆる人達の生活に直接觸れるようになるのには、どうしても多くの人達の對住宅觀念を人各々に理想化するようにならねば、嘘だと想ひます。約り、前述の政治的に云はゞ、人各々が大なり小なり其問題に參與するようになるのが、ほんとうではありますまいか。

○斯る無關心な傾向は、現に細民住宅の問題によく現はれて居ります。例へば、細民達の生活を多少とも合理的に指導し改善せしめ度いといふ關係から、餘程理想化されたる住宅を與へたとて、實際斯の人達の住宅に對する實績は怎麼ものであらうか、理想的に築成された住宅其ものから受くる自然な實効——例へば換氣、採光の如き——は受け得られるであらうが、實際に之を意識的に自己の生活へ直接取り入れ、或は之を control することは、先づ駄目な場合が多くはあるまいか、と想はれます。

○なぜならば、彼の人達の對住宅觀念が寔に貧弱で、寧ろ無關心な人達が多いからであります。即ち、住宅問題なるものは、斯ういふ人達には餘り直接な交涉を自意識的に有つてゐない、謂はゞ、今の住宅問題なるものは、わたし達の事に世話を燒くものだ、位ひな處ではないでしようか。

○單り斯る細民達ではない、中流生活者のそれに於ても、同樣であるように見受けられます。先づ恰好な例は、大阪に於ける中流以下の家庭の多くです、外出のとき抔には、隨分と目を峻てしむるように着飾り、往く處として、相當に口も奢つてゐる。其他、享樂的な而も得て餘り高尙ならざる享樂的な事に隨分と浪費されるる、然るに、一度び其家庭を窺ふと、多くの場合に於て、彼の人達は、其着る物に於て又その喰ふ物に於て、縱むば低級にせよ、相當に皆な要求と理想を有つてゐる、そして、之を具現化する事に骨を折る、にも拘はらず、其人達の『住』の貧弱さよ、無關心さよ、何處にぞ『住』に對する一點の理想や、要求を見出し得られるか、といふ事を疑ふ場合が多いのであります。

○要するに、斯ういふ人達は、人間の物的生活樣式の一つを忘れてゐるのだと、申しても可いと想ひま

す。なぜ、衣と食に對する要求や理想を、住に對しても有たないのでしようか、前二者を享樂するには人各々相當に努力を要するのです、然るに住に對して常に要求を有つ處の努力をせないのでしようか、矛盾と云はゞ眞實く此の位大きな矛盾はないのです。仍で、わたくしは想はざるを得ませぬ、それ、住宅問題を、住の改善なる意味から觀ても、乃至は團體等が自治的に住宅の補給を殷ならしむる關係からしても、彼の人達——多くの民衆が今一入住宅問題に強く考へを有つようにありたい。斯る關係からすれば、結局は、中流以下の人達の對住宅觀念の改善に歸するのであります。

○次に、住宅建築に對する干渉法でありますが、都市計畫法を施行される市街に於ては、「市街地建築物法」によりて、相當な條件を附して居りますから、是は可いとしても、郊外に於ける住宅建築、殊に將來都市計畫圈内に屬するような運命を有つ郊外地に於て、住宅建築に何等の拘束法がないのであります。從つて、例へば大阪近郊に於ける處の、所謂郊外生活なるものの現狀は、甚だ感心出來得ない住宅が多いように見受けられます。わたくしは、前に申した住宅問題を解決する一端として、斯ういふ處から改めて、せめては改善の側だけなりと遣るように拘束法を設けて頂き度いと思ふて居ります。

○殊に、今の如き亂雜に、勝手次第な建て方をなすが儘に委すならば、將來の都市計畫其他に就いて後代に悔いを貽す結果となりはしないか、心ある者の決して看過し得ない現象であります。先づ、試みに、大阪近郊の所謂郊外住宅なるものを見たならば、其極めて少數を除く外、孰れとして住宅問題を如實に解決せる一端と見受られるものがあるでしようか、わたくしは甚だ疑はしく思ふのであります。

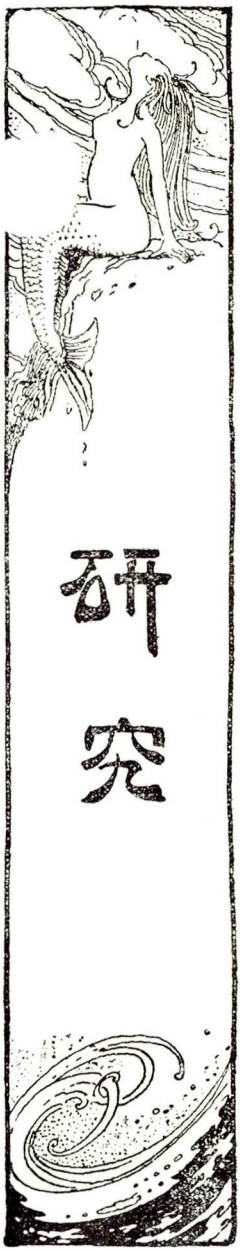
○幷は兎も角、孰れ都市計畫に於て、所謂住宅地區なるものが指定されるでありましようが、何にしても、將來の住宅地は無論郊外たらざるを得ないでしよう。從つて、斯の建築が理想的に行はれ、それに郊外と市内の中樞とを聯絡する處の、高速度交通機關が完備されたならば、住宅問題の大體は解決し得られた事となるでしよう。唯、斯の場合、住宅の供給に就いては、種々な方法もあるでしようが、わた

くしが、曾つて、英京倫敦で見付つた方法は、一種の住宅共有組合といふまうなもので、是が今の處適當のように思はれます。

『住宅共有組合』は、わたくしが今此處に詳しく述ぶるの暇を有しませぬが、兎も角、組合員の比較的僅少なる出資によりて、其組合員各自の住宅を共有的に建設し、之に對して、或一定の料金を組合に對して支拂ひ、組合員は、最も文化的條件に適合せる住宅に住み得ると共に、組合經費の餘剩を見た場合は之を一々割戻す形式に於て、實は組合員の種々な文化設備に充用される、といふ次第であります。日本でも、「住宅組合法」によつて低資の融通を受け、比較的容易に住宅建築を爲し得るようになつて居りますが、其實績に到りては、今一入面白からないように見受けられます。從つて、わたくしは、英國の如き「住宅共有」制度抔を輸入して資本家達の奉仕的に施設を遣つて頂き度い、と希望して居ります、奈何なものでしょう?。

（附記）　本編は、氏の談片を採つて、物したるが故に、其全責任は記者の負ふ所也　　編輯者——

靜けさや
……雲の峯
湖水に映る



建築物の内外に於ける日射關係幷に「サナトリウム」建築上の應用に就いて（三）

京都帝國大學　醫學士　富永孟

第四章　角設と日射時間との關係

東窓にありては陽射時の方向は夏至に於てすら正面より左方 30° は過ぎざるを以て三つの窓は年内を通じて陽射時刻同一なり。而して終射時刻に於て僅少の差あるのみ。

斯くの如く日射時間の長短は季節に伴ふ同沒方位變動の影響ヲ蒙る事大なるを以て、成るべく長時間の日射を必要とする如き場合には、窓幅を廣くし以て廣角を大にせんよりは、數箇の窓を少しづゝ方向を異にして設くるを可とす（例ひ窓の總面積を同一とするも）コハ日光浴定の設計上大切なる一要件なり。

然らば同形同面積の窓が種々の方向に置かるゝ時は日射時間ニ幾何ノ差ありや。之よりその算出方法及び比較例に就て述ぶし。

第五章　窓ノ方向ト日射トノ關係

16　多くの日光を受けんが爲めに最も注意を要するは寧ろ窓の方向にあり。假ひ同一形狀、同面積を有する窓と雖も單にその方向を異にするに從ひ、室内の受くる日光量に著しき相違を來すものなり。茲には複雜なる條件を避くる爲め、假に同一形狀、同面積の窓が單にその方向を異にするのみによりて如何に室内に於ける日射關係に差異を生ずるものなるかを述ぶべし。

日射關係を知るに必要なる要素三ある。曰く、

I.　日射時間
II.　日射面積
III.　日射熱量

之なり。

第一節　日射時間の計算法及び各方向の窓に於ける其比較例

17　日射時間ノ計算法

窓より日光の射入し始むる時刻、及びその際の太陽の方位と高度とは必ずしも日出時のそれと一致するものに非ず。終射の際も亦然り。從てこは一々吟味せざる可らず。

1、初射或は終射の時刻がそれ〴〵日出沒時と一致する際はその時刻は次の公式に據り求むる事を得。即ち日出沒時は $h=0$ なるを以て公式(1)より

$$\cos t=\frac{-\sin\delta\sin\varphi}{\cos\delta\cos\varphi}=-\tan\delta\tan\varphi\quad\cdots\cdots(16)$$

2、初射或は終射の時刻がそれ〴〵日出沒時と一致せざる場合に次の如き順序を經て算出する事を得。

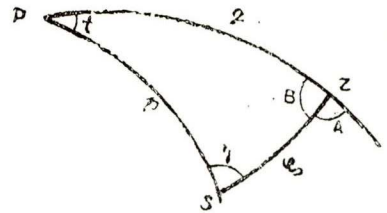
公式(13)により

$$(A-a)=\tan\frac{-1b}{d}$$

$(A-a)$ は初射時或は終射時太陽の方位と窓の

方位との爲す角なり（第13頁參照）。この際に於ける太陽の眞の方位角はAなり。

扨、某日に於ける太陽の方位角のみを知りてその際の時刻を求むるには、先づ天球の極P・天頂Z、太陽Sより成る球面三角形よりして



第五圖

$$\sin p \sin y = \sin q \sin B$$

但し $p = 90° - \delta$

$q = 90° - \varphi$

$$B = 180° - A$$

$$\therefore \sin y = \frac{\cos \varphi}{\cos \delta} \sin A \cdots\cdots (17)$$

上式よりの値を見出し、次にドランブル（Delambre）の公式に從ひ

$$\frac{\sin \frac{t}{2}}{\sin \frac{5}{2}} = \frac{\cos \frac{B-y}{2}}{\sin \frac{p+q}{2}} ;$$

$$\frac{\cos \frac{t}{2}}{\sin \frac{5}{2}} = \frac{\sin \frac{B-y}{2}}{\sin \frac{p-q}{2}} ;$$

$$\therefore \tan \frac{t}{2} = \frac{\sin \frac{p-q}{2}}{\sin \frac{p+q}{2}} \cdot \cot \frac{B-y}{2} \cdots\cdots (18)$$

第八表　各方面の窓に於ける日射時間の比較

1　平分日

窓	初射 日の方位	初射 時刻	終射 日の方位	終射 時刻	日射時間
		時 分		時 分	時 分
N	—	—	—	—	0
N E	0°	6. 0	33° 42°	9.17	3.17
E	0°	6. 0	78° 42°	11.34	5.34
S E	0°	6. 0	123° 42°	1.23	7.23
S	11° 18°	7.17	168° 42°	4.43	9.26

11 夏　至

N	−29° 6′	4.49	−11° 18′	7. 6	2.17
N E	−29° 6′	4.49	33° 42′	10.53	6. 4
E	−29° 6′	4.49	78° 42′	11.50	7. 1
S E	−29° 6′	4.49	123° 42′	12.32	7.43
S	11° 18′	9.40	168° 42′	2.20	4.40

111 冬　至

N	—	—	—	—	0
N E	29° 6′	7.11	33° 42′	7.42	.31
E	29° 6′	7.11	78° 42′	11.18	4. 7
S E	29° 6′	7.11	123° 42′	2. 8	7. 4
S	29° 6′	7.11	150° 54′	4.49	9.38

※ 日の方位はE＝0°としSに向ひて測りしものを（十）とせり

（18）　日射時間の比較

上表の終欄を見れば大概次の事項を知る事を得即ち窓の高さ幅及壁の厚さの比を10:5:1とすれば

1、日射時間は平分及び冬至にありては南窓最長く、南より遠ざかるに從ひ窓より日光の射入する時間短し。

2、この兩日にありては南窓は大概9時間半、東南窓は7時間餘、東窓は5時間半乃至4時間、東北窓は3時間乃至30分の日射時間を有す。

3、夏至南窓は北窓に次で日射時間短く、東窓及び東南窓は最長く大凡南窓の二倍なり。

第二節　日射面積の計算法及びその比較

19、日射面積の計算法

第四圖に於て日射が或る方向（a）の窓に對し（A−a）なる方位と、hなる高度を有する方向より斜に室内に射入し來る瞬間に於て、日射方向に垂直なる平面を以て截る時は、その直截面上に於ける日射面積を求めんに、先づBC′SA′をABCD面内有於ける日射面積とすれば

$$BC' = b - d\tan(A-a)$$

同樣に

$$BA' = a - \frac{d}{\cos(A-a)}\tan h$$

故に

BC′SA′の面積＝$\{b-d\tan(A-a)\}$

$$\left\{a-\frac{d}{\cos(A-a)}\tan h\right\}\cdots\cdots(19)$$

上記の面積に窓の面の法線と光線方向とを為す角の餘弦、即ち

$$\cos r=\cos h\cos(A-a)$$

を乗ずれば可なり。

故に求むる直截面積Sは

$$S=\{b-d\tan(A-a)\}.\left\{a-\frac{d}{\cos(A-a)}\tan h\right\}$$

$$\cos h\cos(A-a)=\{b-d\tan(A-a)\}.\{a\cos(A-a)-d\tan h\}.\cos h\quad\cdots(20)$$

第九表及び巻末附圖のIは

窓の高さ　a＝6尺

幅　　b＝3

壁の厚さ　d＝0.6

窓の方向aが

N　＝－180°

NE＝－135°

E　＝－ 90°

SE＝－ 45°

S　＝－ 0°

第九表　毎時刻に於ける日射面積

1　年　分　日

窓＼時	6時	7	8	9	10	11	12
N	—	—	—	—	—	—	—
NE	10.0	7.2	4.1	0.9	9時17分 0	—	—
E	18.0	16.2	13.8	10.0	6.4	2.5	11時34分 0
SE	10.0	11.7	12.5	12.3	11.3	9.2	4.6
S	—	7時17分 0	1.8	4.2	6.5	7.7	8.8

11　夏　至

窓＼時	時 分 4.49	5	6	7	8	9	10
N	5.6	5.1	2.4	0.2	7時6分 0	—	—
NE	16.3	16.0	13.9	11.3	8.2	4.8	1.7
E	13.8	14.3	15.0	14.0	13.0	10.1	6.2
SE	1.4	1.9	4.2	5.6	6.3	6.2	5.8
S	—	—	—	—	—	9時40分 0	0.5

111 冬　　至

窓＼時	時分 7.11	8	9	10	11	12	1
N	—	—	—	—	—	—	—
NE	1.4	7時42分 0	—	—	—	—	—
E	14.0	12.0	8.8	5.0	1.1	11時18分 0	—
SE	16.3	16.8	16.5	14.0	11.4	8.0	4.3
S	5.6	7.6	9.9	11.7	13.2	14.3	14.2

時日か

平　分　　$\delta = 0°$

夏　至　　$\delta = 23°27'$

冬　至　　$\delta = -23°27'$

なる場合に、一時間毎に相當する瞬間に於て此等の窓を通じて射入する日射面積を直截面上に於ける大さ（單位一方尺）を以て表したるものなり

但し $\varphi = 35.$ は地方眞太陽時を以て表す。

1　平　分　日

窓＼時	午後 1時	2	3	4	時分 4.43	日射時間	日照量
N	—	—	—	—	—	時 分 0	0
NE	—	—	—	—	—	3.17	17.1
E	—	—	—	—	—	5.34	57.7
SE	1.6	1時23分 6.5	—	—	—	7.23	66.6
S	7.7		4.2	1.8	0	9.26	46.0

11　夏　　至

窓＼時	11	12	1	2	時分 2.20	日射時間	日照量
N	—	—	—	—	—	時 分 2·17	6.1
NE	10時53分 0	—	—	—	—	6. 4	50.5
E	2.3	11時50分 0	—	—	—	7. 1	68.2
SE	3.5	1.0	12時32分 0	—	—	7.43	31.8
S	1.6	1.8	1.6	0.5	0	4.40	6.0

111　冬　　至

窓＼時	2	3	4	時分 4.49	日射時間	日照量
N	—	—	—	—	時 分 0	0
NE	—	—	—	—	.31	0.3
E	—	—	—	—	4. 7	31.1
SE	0.9	2時8分	—	—	7. 4	75.5
S	11.7	9.9	7.6	5.6	9.38	102.2

20　日射面積の比較

日射面積は時々刻々變化しつゝあり。故にその比較には直截面上の單位面積か單位時間照射を受くる際に之を單位の日照量と見做すべし。

既にAtkinson(1)は日照量に就て次の如く述べたり

By multiplying the area of the cross-section of a prism of light rays passing through a window by the length of time during which the sun is shining through the aperture of that shape (of the window), we shall obtain what I call "quantity of sunlight" expressed in "sun-hours", the sun-hour being the amount of sun light received by a surface of 1 foot square exposed to the sun for one hour.

原文は Technology Quarterly Vol. XVIII, No. 3. Sept. 1905 に記載の由、されどこゝは閲讀の途無かりしを以て下記の引用書に據れり然れども該書中には如何にして日照量を計算するやは記載せられず。且太陽の高度に基く日射熱量の多寡には言及する所無かりき。

余は日照量を比較せんが爲に方眼紙を用ひ、各時刻(t)をx軸に、その時刻に於ける日射面積(S)をy軸に取り、相連ねてそれぞれ異りたる曲線を得たり（卷末附圖のI參照）。今之等の曲線と兩軸との圍む面積を切取り、感量1/100瓦なる天秤を用ひてその重量を秤量し、以てその比を求めたり。今該曲線とx、y軸との圍む面積の重量をG、單位日照量に相當する重さをg、一日中に受くる日照量をQrとすれば

$$Qr=\frac{G}{g}$$

第九表の各欄に示せるもの之なり。

各窓の一日中に於ける日照量を比較する時は、冬至にありては南窓最大にして南より遠ざかるに從ひ減少するを見る。平分日にありてはその最大は東南窓にあり。東窓之に次ぎ、南窓は三位にあり。夏至に至ればその最大は東窓に移り、東北窓之に次ぎ、南窓は最少なり。

各季節を通じての比較によれば冬至の南窓は最大にして、次は同日の東南窓なり。平分日の東南窓と夏至の東窓とは大差無く、次に平分日の東窓

と夏至の東北窓とも亦大差無きを見るべし。斯の如き順位の生ずる理由は日射面積の最大は太陽の高度成るべく低くして、且窓の正面より射入する時間長き時と當るを以て、この條件に適するには冬至の際は南窓及び東南窓、平分日の東南窓、夏至の東窓なるは明なり。

(1) Ochsnerx Sturm : Organization, Construction & Management of Hospitals. 1909 II. Edit. P. 131

桐の木の　　椅に近し

雲　の　　峯

美術工業の諸問題 (二)

——建築裝飾としての美術工業品について——

川村種三郎

然し美術工業を工業的一分科として他工業と區別するのには尚多少考察の餘地があると思ふが、此等の衣食住の需要に應ずる阿れの工業でも、美術工業として發達する可能性をもつてゐるのである。

美術工業の範圍は、技術の發達、科學の進歩に伴なつて益々擴張せられて行くのであるが、美術工業は其の實用と材料や用途の性質上、或る特種な制限を受けなければならないのであるが、此等の制限も前に述べた美術工業の定義によつて、容易に肯定することが出來得るのである。

權田氏は此等の制限を三方面に分けて

(i)性質上の制限

美術工業の本質より來る制限

二、美術工業の範圍

美術工業の範圍は、前に述べた美術工業の定義によつて自ら決定されるものであるが、實際上から見るときは生活程度の進歩、技術の發達等によつて絶えず範圍を擴張してゐるのである。

Sombart は『近世資本主義』に於て Die sphare des Spécialisierten Grossbetriebs を類別して、

(i) Ernahrungsgewerbe
(ii) Bekleidungsgewerbe
(iii) Baugewerbe
(iv) Geratschaftsgewerbe
(v) Kunstgewerbe

として美術工業を其の一分科として取扱つてゐる

(ii)技術上の制限

美術工業品の創作より來る制限

(iii)存立上の制限

美術工業品の享樂より來る制限

としてゐる。そしてその性質上の制限を

美術工業は、日常生活の需要に應ずべき實用品を、作り出すものである。

といふ點から、

(a) 美術工業は、全成品工業でなくてはならぬ。

(b) 美術工業は、直接消費に供せらるべき物財を、生産する工業でなくてはならぬ。

(c) 美術工業は、實用工業でなくてはならぬとし、美術工業には、藝術的作用を融合せしめなければならぬものである。といふ要素から、

(d) 美術工業は、美的作用を附與し得べき工業でなければならぬ。

とし、尚技術上の制限を説明して

美術工業は從來は手工生産であつたが、社會經濟狀態の變遷と、生活狀態の推移とによつて、手工業的生産方法は漸く時代と疎隔して、これに代てつ、家内工業が生産方法の中心勢力となつたのであるが、これによつては到底趣味あり、生命ある美術工業品は製出せられずに、手工業的作品の模倣に終つて、終に岐路から迷路、迷路から邪道に紛れ込んだのである。此れが今迄の狀態であるが、こゝは工場制工業と名ける、新しい經營形式が現はれて、機械と、分業とによつて、工場的組織のもとに立つて、新しい美術工業を押したて樣と企てたのである。併しながら、優秀な圖案設計者、巨額な資本、熟練した勞働者、精巧な機械、巧妙な勞働組織といふ基礎にたつての美術工業が生れ出るには、今日の機械と分業も、なほ餘りに發達が不充分であり、幼稚であるから、そこに新しい美術工業の制限が横たはつてゐるのである。手工業的生産を脱し、家内工業的生産方法を通れて、工場制工業生産方法に落付く所を見出さんとする美術工業は、そこに機械と、分業の未完成といふことの爲めに、活動範圍の制限を蒙つてゐる

のである。

尙さらに、存立上の制限を說明して、

存立上の制限とは、美術工業品を享樂する條件より來るものであつて、美術工業品を享樂し、美術工業品を評價する社會生活狀態と、社會に於ける美的觀念普及の程度如何である、としてこれを

（a）生活程度の進步は、生活享樂に於ける缺くべからざる基礎である。

と述べ、美術工業は、民衆一般の實生活の內容を豐富にすることがその使命で、現存の社會經濟組織に於ける缺陷は、民衆生活と、美術工業との接近を甚しく阻碍してゐることである。これが美術工業の存在の上に於て蒙る一つの制限である。もしこれのみならず、

（b）社會に於ける美的觀念普及の程度が、問題となるのである。

と述べてゐる。

此の美的觀念普及の程度は、單に美術工業に於ける立場のみならず、總ての點に重要な影響を及ぼしてゐるのである、そしてこの完全な普及は、生活改造の要諦である上に、最も健全な美的觀念の發達と、その普遍化は、あらゆる社會政策一切の文化政策の目標であらねばならないと思ふ。併しながら現今の社會狀態に於ては、この何れもの發達に支障を來さしめる事情が、甚だ多いのであるから、美的觀念の發達と、普遍化とを阻止しつゝあることは、美術工業の範圍擴張に對する、存立上の制限となつてゐるのである。

權田氏の美術工業の制限範圍の見解の如く、現今の美術工業には、多くの制限が橫はつてゐるのであるが、本質上の制限を除いては、技術上及存立上の制限は當然除去し得る可能性をもつてゐるものである。かくして本質上の制限範圍內で絕對自由に解放され、充分に發達し得るのであつて、この性質上の制限以內にある各種の工業は、全部美術工業となることが出來得るのである。それ故に我々は再び Sombart の、

「衣食住と、それに類する需要に應ずる何れの工業も、遂には發展して美術工業となり得るものである。」

といふ前述の見解を注意しなければならない。

三、奢侈工業との相異點

美術工業の範圍についてはすでに前に述べたので明かであるが、美術工業と奢侈工業とを混合する場合が、多くあるのである。佛蘭西革命當時にあつては美術を以て奢侈と同視し、之れを貴族社會階級の贅物として排斥したものである。——此れがため佛蘭西の美術工業は一時非常な衰退を來した。——此れ等は當時の支配階級の破壞に伴なつた餘波にすぎず、一時の變態狀態とみるべきものである。併しながら美術工業と奢侈工業とは、全然區別すべきもので、これは美術工業の經營組織にも、重大な關係をもつてゐるのである。

Bücherは美術工業と奢侈工業とを區別して、

『奢侈工業に於ては、其の主眼とするところは、日常必要なものでなく、外觀的慾望を滿足せしむるにある……』

と述べ、Roscherも亦、奢侈を定義して

『奢侈とは必要の限度を超過した、缺くことが出來得る消費である。』

と言つてゐる。

これ等によつて見るも奢侈工業は、美術工業の如くに、日常生活の需要に應ずる實用の要素を缺き、又必ずしも藝術的作用を期待するものでないのである。併し、こゝに注意しなければならないのは、奢侈の意義が各時代、各社會、各階級によつて、多少の相異があるとされてゐることである。

これについて津村氏は、奢侈と稱する場合を類別して、

（i）同一社會階級の前進者の新慾望は、後進者より見て、奢侈と稱せらるゝ場合

（ii）上流社會の慾望を、下等社會より見て、奢侈と稱せらるゝ場合

（iii）前時代の人々より、後時代の同一社會階級の人々の慾望は、奢侈なりと稱せらるゝ場合。

（iv）低度の文明の民より見て、高度の民の慾望は、奢侈なりと稱せらるゝ場合。

とし、『尙奢侈は共通性のものにあらずして區別性

のものたるべく、奢侈は絶對性のものにあらずして相對性のものたるべく、奢侈は物に附着の性質にあらずして人に附隨の關係たるべく、物の奢侈たると否とは、時代、國民、社會階級に應じて定まるものなり、要之、其時代の風習、其國民の富力、其人の身分に取りて不相當の慾望を充すは即ち、其時代、其國民、其人に取りて奢侈たるべきのみ、されば其の時代移り、其國民進歩し、其人の身分一段と上昇するに及んでは、昔日の奢侈も今日は最早奢侈にあらざるべく、曩きの贅澤品は今は普通品にあらざるべし。是れ今は其時代、其國民、其人に取りて身分相應のものとなりたればなり。』

と、述べてゐる。併しながら物々が現今の我國の社會狀態を基本として、奢侈工業と美術工業との相異點を考察する時は、同一品であつて或場合には美術工業品となり、或場合には奢侈工業品となるといふことはあり得ないと思ふのである。或特種階級の需要に應じても、需要範圍が狹少であること——換言すれば稀少性を有すること——一般生活の需要に應ずる實用となり得ないことは、美術工業品としての條件に合一することが出來ないのであるから、美術工業品と稱することが不可能である。この點から奢侈を稀少性を有する高價な物の使用であるとも考へ得るのである。

此等の點から美術工業は到底奢侈工業と、同一視することが出來ないと思ふ

四、流行と美術工業

流行の心理的原因について Muthesius は『流行は明らかに一の極端から他の極端に走る傾向がある。そしてこの變換に對する心理的原因はこれを次の樣に說明し得ると思ふ。即ち或る一つの形式の觀象をするにあたつて働いた或種の器官が、其の間に漸く疲勞して遂には他の器官の働きに席を讓る樣になり、それが或る他の形式を作り出す樣になるのである。』

と述べてゐるが、尙この流行の社會的誘因として、

1、下級階級に對する上流階級の優越感。

2、上流階級に對する下級階級の模倣性。

3、企業家の無限的營利心

等を擧げることが出來得るのである。そして此等の爲めに變態的流行の現象が起り、流行に流行をつぎ其の結果として、人は流行の爲あに驅使せらるゝ倒錯狀態となるのである、併しながら他方面から考へるときは、流行が生じて各人が同樣の生産品を消費する樣になれば、生産者は大規模生産に從事することが出來得るため、生産費の減少をきたし、生産の發達を助くるものである。この點から見るときは、流行は美術工業の進步を促すものと言ふことが出來得るのであるが、現今の流行は多くの場合此の如き好果を齎さないのである。新奇を慾求すること、消極的に舊態を嫌惡することの甚しいのは、現代社會に於ける何れの階級も同樣であつて、一樣にあらゆる方面に、强烈な刺戟を求めてゐる。强烈な刺戟を求めてゐるのは結局新しい刺戟を求めることゝなる。自ら新しいものを求めなければならなくなるのである。此の如く强烈な刺戟、新奇な刺戟を要求するのは、要するに社會の各階級の神經衰弱に起因してゐると考へ得るものである。我々の生活感情が發動せず、生存意識の減少を來すが故に、衰弱せる神經をより一層昂奮させるために强烈な刺戟を要求し、尙常に瞬間的にこれを慾求するのである。此の心理狀態が流行激變の誘因となるものであつて、此の如き內的慾求によつて誘動せれた流行が其の物品の實用的價値、美的價値に全然無關心なのは當然のことである。

現今の如き變態的流行は美術工業の進步發達に良影響を及ぼさないのは明らかな事である。消費者に對しては消費能力を貧弱ならしめ、生產者に對しては營業上の危險を多からしめるものであるから、流行の激變は却つて大量生產の工場制工業活動に依賴する念を去らしめて、小規模の家內工業制を採用せしめる狀態に落入るのである。これは明かに家內工業から工場制工業への進路を阻止する障害となり、生產の進步を阻害すること甚しいのである。併しながら美術工業の本來の意義から考ふれば、美術工業は此の如き變態心理的誘因

によつて動かさるゝものではなく、美術工業の發達は流行の變態を阻止し、空虚な流行の變調を整正する效多いのみならず、人間生活の眞の慾求を變更せしめるに役たつものである。

Waentigは

『美術が我々に與ふところのものを我々の生活から控除すれば、殘つたものは我々を永久に破壞に導く乾燥無味な慾望のみである』

と言つてゐる。

（今我國に於ける美術工業の生産狀態を考へる前に、歐洲諸國に於ける生産組織の變遷、近世に於ける美術工業運動等を述べてみたいと思ふのである、此等は美術工業と勞働との問題や、新美術工業の經營などに、かなり重大な關係があるものと思つてゐる）「未完」

玉あらば玉洗ひたき清水哉

鐵筋コンクリート其の日其の日（六）

會員　工學士　增田清

（三）コンクリートと鐵とのボンド（續き）

梁に於けるフックの働き、梁の中に入れた鐵筋の端をフック（鈎形）に曲げて置きますと、其の梁は、鐵筋を只、眞直にした儘で入れた場合よりも遙かに多くの荷重に堪えます、バッハ教授が調合一・二・三のコンクリートを用ゐ、材齡四十五日、徑間六呎、斷面十二吋角、鐵筋は〇、九八吋の丸鋼一本を入れた梁で試驗しました、其の結果に據りますと、

其の鐵筋の端にフックのないときには此の梁は一萬四千三百三十ポンド、フックが直角に曲げてあつた場合には、二萬四千二百五十ポンド、四十五度のフックでは二萬五千八百ポンド、圓形のフックでは二萬八千六十ポンドの荷重に堪えました即ち眞直の時よりも約倍に達する荷重に堪へたのでした。而して直角に曲げてあつた時にはフックの端が眞直に延ばされた爲めに梁が落ちました。

以上は主としてテー、ラートムソン兩氏の鐵筋コンクリートの本から抜萃したものであります。

（四）煉り合せの時間とコンクリートの强さとの關係

在來の鐵筋コンクリート工事では只、コンクリートの調合の割合を指定する位で、水量の多少や煉り合せの時間などゝ云ふものを殆ど無視して居ました、一・二・四のコンクリートであれば、よい位に誰しも考へて居たのでしたが、これからは只さういふ漫然たるやり方ではいけないと思ひます今度は例によつてコンクリートの强さに及ぼす煉

り合せの時間の影響と云ふ事柄についてエブラムス教授の研究されたものを譯載しやうと思ひます原文はもはや稍時代遅れになる位の古い雑誌にあつたのですが、日本ではまだまだ新しい事だと思ひますから特に此處を借用するのです。

大量のコンクリートを打つ工事では今や機械煉りが手煉りを驅逐してしまひました。手煉りでも良質のコンクリートを得られぬ譯ではないのですが、手煉に依つて良いコンクリートを得やうとすると随分、注意深くなければならず、亦、甚しく骨が折れることは皆さんの御承知の通りです、又機械煉りであらうと、手煉りに依らうと、仕上りのコンクリートの性質は煉り方の完全さの程度に依るものだと云ふ事は古くから人の知つてる事です。

在來は此點について充分なる實驗的研究と云ふものはなかつたのでした、只ぼんやりと時間を長く煉れば良からうといふ考から、最近には煉り合せの時間を成る可く長くする様に仕様書に書く傾向があります、しかしコンクリートを完全に煉るといふ事が如何に大事なものであるかと云ふ事については、最早疑を容るゝ餘地はないのであります。

煉りが悪いと、必ず不良なコンクリートになるといふ事は間違のない事です、コンクリートの煉りの足らぬのは、よくある事ですが、水量の過多と相待つて、強さの不充分な不良なコンクリートや、早く磨滅する様な粗悪なコンクリートを生じます、此の悪い二つの事の中で、水の多い時の方が煉りの足らぬ事よりも遙かに多く害をなすのです。

勿論、ミキサーの種類や、大さは數限りなくありますので煉り時間を幾何にするがよいかと云ふ確かな根據は今迄、ありませんでした。最低限度の時間を指定したものでせうか、或はドラムの廻轉數を最低何回と指定すべきでせうか。若し煉りの時間を指定したならば、容量の異る。又は速さのちがう、ミキサーに對する適當なる標準は如何此の標準を適當に定めても、亦他に同様に重要な問題が生じます。即、若し、コンクリートの調合

が異る時には、煉り合せの時間を如何に變化すべきかと云ふ様な事です、是れ等種々の問題に對する一定の智識を求むる爲めに下の如き二通りの試驗をしました。

（一）、六吋に十二吋の圓壔體で抗壓試驗

（二）、八吋角、厚み五吋の試驗片で磨滅試驗

コンクリートの磨滅試驗は道路舖道、床、人道等の築造に廣く用られる事を考へると頗る興味のある事であります。此の試驗はタルボット、ジョーンスのラットラーで行ひました。

試驗片は凡てゞ三千八百箇以上に達します。まだ一年後の試驗はしてありませんが次の様な事について結果を求めました。

（一）、强さと磨滅とに對する水量の影響

（二）、抗壓强さに對する煉り時間の影響（十五秒から十分迄）

（a）煉り加減の種々なるコンクリートに對し

（b）セメント量の色々なる割合について

（c）凝元體の大さなり、粗さの割合なりを可なり廣く變化して

（三）、煉り加減を種々にしてそのコンクリートの磨滅に及ぼす煉り時間の影響を見る事

（四）、磨滅と抗壓强さとの關係

（五）、ミキサー、ドラムの廻轉數がコンクリートの强さに及ぼす影響

（六）、水の温度がコンクリートの强さに及ぼす影響

（七）、コンクリートの强さに及ぼす材齡の影響

（a）煉り合せ時間を變へて

（b）調合と煉り加減を變じて

（c）凝元體の大さを種々にして

（八）、機械煉りと試驗室で行つた手煉りとの比較

（九）、ミキサー試驗の均一加減

凡て以上の實驗はシカゴのリウイス、インスチチユートの構造材料試驗室に於て行はれたものです。しかし是は種々なるミキサー全部に對して充分試驗をする爲めのほんの豫備と見るべきものです。

試驗の概要、便宜の爲めに各試驗片の一群毎に番號を打ちました。卽ち第八十一類のものは機械煉りのコンクリートの一樣さについて、第八十九類は煉り時間卽水量の影響の研究に、第九十六類はミキサー、ドラムの廻轉數の影響の研究に、第九十七類は強さに及ぼす水の温度の影響の研究に

煉り合せの時間の研究に用ゐたミキサーは足付の算盤珠の形、大さは三切半煉り、一杯にコンクリートを煉りて試驗片に作りました。

第八十一類は眞の豫備的のもので、一煉りに煉つたコンクリートの異つた部分から採つた試驗片の抗壓強さの變化を研究する目的のものです、水量を異にして三煉に煉り上げ、徑六吋に高さ十二吋の圓壔として七日及廿八日目に各抗壓試驗を行ひました。

第八十九類は煉り合せの時間の影響の研究に用ゐたので、セメントや凝元體の割合は凡ての試驗片に於て一樣とし、只相當堅いのから軟かい煉りに至る迄、水量の加減を變へたコンクリートを用ゐました。ごの煉りも早いのは十五秒から遲いのは十分位迄、時間を變じ、抗壓試驗を七日、二十八日、二ケ月と分けて行ひ、磨滅試驗を二ケ月目に行ひました。

第九十三類では調合及凝元體の大さを共に變じて煉り合せの時間がコンクリートに及ぼす影響を研究しました。前半の部分は同じ凝元體、卽（零から一吋四分の一に至る大さの）を用ゐてセメントの含量を變じ一●二から一●一五といふ割合のものについて行ひ、後半部ではセメントの割合は一、五と云ふ樣に一定に止めて置いて、凝元體の大さを十四目の篩を全部が通つてしまう砂ばかりのものから大さ二吋に達する砂利交りのものまでとしました。各々一煉りを十五秒から十分迄と時間を變じました。

又機械煉りと同樣手煉りで試驗片を作りましたしかし手煉りの方では只、一つの煉り時間を用ひたのです、抗壓試驗は七日、二十八日及三ケ月の材齡のもので行ひました。一年のものはまだ出來ません。

第九十七類では水の温度がコンクリートに及ぼす影響を調べました。水は華氏の十八度から二百十二度迄に變じ、煉り加減を四通りとしました。のみならず、同樣の試驗片を日を別にして作り七日、二十八日及三ケ月目に抗壓試驗を行ひました

材料

セメントは四種類のものを等量に混じて用ゐました、即、ミキサーに各一嚢づゝ投じて凡一分間づゝ廻轉してまぜたのです、凝元體はエルジン産の砂及砂利を用ゐました。大さは砂が三分止り、砂利は二分から一寸迄の大さのものです。

砂は使用前に第四號の篩を通し此の篩に止つたものは砂利の方に入れました。砂利は試驗全部にわたりて適當の砂を加へて、大さ一寸迄の細粗適度なる凝元體を作りました。たゞ第九十三類では十四號、八號及四號の篩目より細い砂を用ゐて小さい粒の凝元體を使用しました。使用した篩はタイラーの標準篩です。

煉り合せ

セメント、水及凝元體はよく重さや容積を計りミキサーに入れてからミキサーを廻轉し始めました、煉る時間はこの廻轉の始めから、明け始め迄の時間とします。第九十三類では機械煉りの外に實驗室で始終行ふ手煉りの方法を用ひて同樣な圓壔形供試體を作りました。此の手煉では一つの圓壔體を作る分丈（約五分の一切）を淺い金屬製の皿に入れて鏝で煉りました、型へ入れる方法などは全體を通じて一樣にす、此の試驗は手煉りと機械煉りとの差を見る爲めに行つたのです。

第九十六類に用ゐたミキサーの廻轉數を變ずる方法は調べ革を種々なる大さのプーリーにかけ、又はモーターの速さをかへて得ました。ミキサーへ水を供給するタンクは精細なる目盛を施して水量を綿密に量り得る樣にしました。又、水ばかりでなく湯をも用ゐ得る樣に作りました。極めて低溫の水を得る爲めにはタンクに氷塊を入れ、沸騰點に近い溫度を得る爲めにはタンクを瓦斯で熱しました。

試驗片

凡ての調合はセメントと、混合した凝元體との

容積の比で表してあります、例へば、一・四の調合ではセメント一切と凝元體四切を凝元體の粒の大小に係らず用ゐました、大抵の試驗には一・四の調合のものを用ゐましたが、是れは普通の一・二、三又は一・二、五・三の調合に當ります。一・四の調合に精密に匹敵する樣な普通の調合は凝元體の大さとその粒の割合で一定しません。煉り加減は大抵一々の試驗で變じました。煉り加減を表すには相對的煉り加減といふ言葉を用ゐました。百パーセントの煉り加減と云ふのは徑六吋高さ十二吋の圓壔形の型にコンクリートを詰めると直ぐ鋼鐵の枠をそつと辷らして外す其の外した時に約四分の一吋から二分の一吋の短縮を示す軟らかいものを稱します。勿論、かゝる狀態を生ずる爲めに用ゐる水の量は調合の良否、凝元體の粒の大小の割合、水の吸ひ方等に依りて一々差のあるものです。其の他の煉り加減は、『標準煉り加減』を作るのに必要なる水量を以て表します。即九〇パーセントとか百五十パーセントとか云ふのです。しかし『標準煉り加減』と云ふのが一番強さの大きいコンクリートと云ふのではありません。最も強いコンクリートは『標準煉り加減』の九〇パーセント位の時に最も多く表れます。煉り加減を或る標準を基として表す方法は極めて便利ですけれども、此の煉り加減に對して試驗した結果は十分滿足なものとは云へなかつたのです。惡い調合のもの、又は細かすぎる或は反對に粗すぎる凝元體に對しては一致した結果を得る事が出來なかつたのでした。

第九十七類では貫通試驗をして、煉り加減を見ました。徑四分の三吋長さ二十四吋、重さ一ポンド四分の三の薄い眞鍮製の棒の先へ尖つた鋼鐵の沓をはかせたのを用ゐ、この鋼鐵の尖端は二吋の間で四分の三吋から十六分の一吋の尖りになる樣につくつてあります。この棒を新しいコンクリートの上に眞直に立てゝ、その尖端がコンクリート面に接する樣にします。

棒を離すと、自分の重さで、中へ通りますが、此の貫通の度は即、コンクリートの粘さによるのです。此の試驗を數回反覆して其の貫通した、深

さを計り、その平均を記錄します
若し棒の先が大きい砂利に當つた時には其の結果は考へに入れません。

第九十七類では是れで極めて良い結果を得ましたが、しかし、調合は只、一色で凝元體の粒の大小の割合には何の變化も與へなかつたのでした。此方法は調合が甚だしく變化したり、或は粒の細粗の度に激しく差がある時には充分には行きませんが、用ゐるコンクリートが一樣なる性質のものに限られて居るときには極めて有用なる方法であります。

煉り合せに用ゐる水量の多少はコンクリートの強さに對して頗る重大なる影響を及ぼすものです水量は次の條件に依つて加減します。

(一)、セメントの量
(二)、セメントの標準煉り加減
(三)、凝元體の大さと粗さの度合
(四)、凝元體の吸收
(五)、凝元體の中に初めから存する水量
(六)、工事の種類、即、部材の大さ、打込、仕

上等の取扱の方法

煉り加減と云ふ言葉は粘さ加減、柔さ加減等、煉り立ての新しいコンクリートの物理的狀態を表すので、水の量には關係はないのです、コンクリートに用ゐた水量はセメントの量を基として云ひ表すのが尤も便利で、此の比例がコンクリートの強さを表すには最も適當なる標準になると云ふ事が分明しました。

六吋に十二吋の圓筒形の試驗片を作るのにはその大さの鋼製の假枠を作り、下に鑄鐵板を平らに削りた臺板を置き、間にパラフインの薄い紙を敷いて其處へコンクリートを入れました。

機械煉りの分は大きいスコップに受けたものを型の三分の一程迄、入れて徑四分の三吋の棒の長さ二十一吋なるをとつて搗き固め、順次、かくの如くして一杯に滿しました。一杯になると上を煉瓦積用の鏝で平らにして、三時間から六時間後に薄い純セメントの糊を豫めコンクリートと同時又はその前に煉つて置いたのを上へのばし、板硝子とパラフイン紙を一葉用ゐて、荷重試驗をする時

に圓壔形の上端が眞つ平らな滑かな面になるやうに作り上げました。此の硝子は枠を外す時迄其のまゝに放置します。在來行はれた方法、即、石膏又はセメント、プラスターを用ゐて上端を平らにする方法に比較しますと是れは次の如き長所があります。

(一)、此の蓋はコンクリート同樣に丈夫で強いので試驗片自身と差がありません

(二)プラスターを用ゐるものに比して時間と勞力とを節約し得るのみならず

(三)、枠のある間、板硝子の働きで水分の蒸發を防ぎますし

(四)、試驗片は二度手間をかけずに直ちに試驗にかける事が出來ます

磨滅試驗に用ひる供試體は三つの型を一組とし直接コンクリート床の上に置いた建築紙の上に据へます、コンクリートを詰めてから搗き固めを行ひ、上端を鏝で均し、一二時間後に木の定規で仕上げます、蓋をする代りに、濕つた建築紙をのせ三吋厚みの濕つた砂をかけて置いて、型の中にある間、水分の失はれるのを防止します。凡ての試驗片は一晩型の中に入れた儘にし、型を外すと地下室の濕つた砂の中に貯藏します、抗壓試驗片は試驗をする迄砂から出しませんが、磨滅試驗片は試驗前二日間室の中に放置して乾き切る儘に任せます。

機械煉りの方は十五から十七の試驗片を用ゐて居ます、凡ての試驗片は如何なる場合にも出た順序に作りて、番號を打つて置きます。即、ミキサーから最初に出たもので第一號の試驗片を造り、最終に出たので最後の番號のものを造ります、各々材齡の試驗をするには、全體の煉りを通じて試驗片を一樣に分配しました。

試驗の方法

抗壓試驗に用ゐたのはオルセンの二十萬ポンドの試驗機で、試驗片の上部には球形のベアリング、ブロックを載せ、コンクリートの彈性率を計算する爲めに歪を測定しました。

磨滅試驗はタルボット・ヂョーンス・ラットラ

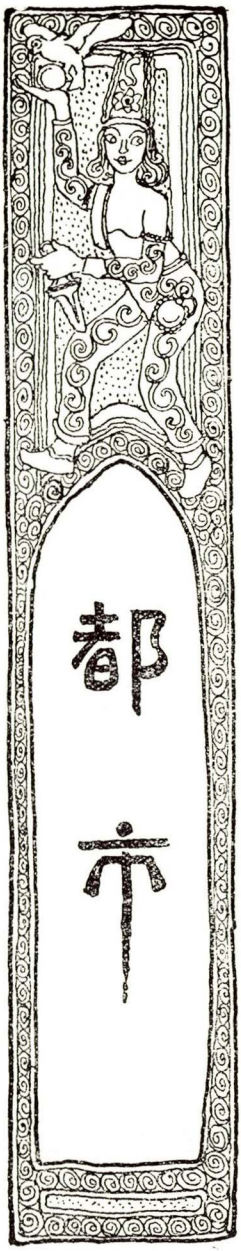
ーで行ひ、太鼓形の胴のまはりに厚さ五吋で八吋角の試驗片を十箇並べて一組とし、その表面が十角形になつて內面を向き、內側で二十六吋の徑、外では三十六吋の大さになる樣にし、外へは薄い鋼鐵板の蓋をかぶせます、磨滅を起すべき球は徑一吋八分の七のもの百三十三箇、三吋四分の三のもの十箇、此の重さ二百ポンドになるを用ゐます此の球はアメリカ材料試驗協會で敷煉瓦の磨滅試驗に用ゐる標準と同じものです。

扨て試驗は此のラットラーを一分間三十回轉の割合で初め一方向に九百回、次に反對の方向に九百回、合計千八百回、廻轉します、試驗片は型を外した時、砂から出した時、及試驗の直、前後に重さを計りました。試驗中に減じた重さが磨滅の度を表はすものとし、此の減損を吋に換算して表はします。

涼しさや

豊見し門に

月の影



市俄古貨物運搬用地下電鐵に就いて

工學士　清水淵

昨年歐米視察の途に上り、都市交通機關の現狀を達觀して來ました。倫敦、巴里、紐育等の大都市は、市内外の交通機關完備して遺憾なき樣に思はれますが、大都市に於ては、十二分に交通機關を分布設備するも充分といふ時期は到達せぬといふても差支へないので、高架、地下の高速路線が全市に行き渡り、路面電車が蜘蛛巢狀に敷設せられ尙、乘合自動車が到る處に動いて居ても、朝夕雜沓期に於ては、滿員また滿員といつ有樣で、日本と大差なき狀態にあるのであります。紐育で高速鐵道界の權威者たる「ターナー」氏に、『紐育の高速路線は幾許の線路を增設すれば現在の雜沓を緩和するを得るや』との質問を發したるに對し、同氏の返答は振つて居るのであります。即ち『紐育市は無數に高速鐵道綱を敷設するも、其工事完成頃には、已に滿員の狀態に在りて、幾等增設するも充分といふ時はないと思ふ。從て雜沓緩和に對する增設延長は、到底豫想の限りにあらず』といふ

のであります。事實それ程でもないと思ふが斯の言は、確かに現時大都市の趨勢を語る名言であると思ひます。

歐米都市の舊市は、何れも一般に路幅狹隘で、石造、煉瓦造の高層家屋が建連り、更に、地下室の設けも多く、從て、路面電車も、複線を敷設することも能はずして、單線運轉の箇所も到る處に見受けられ、地下高架の鐵道を今日於て新設せんとすることは至難であると首肯さるゝのであります。倫敦舊市部の如きは、路面電車の敷設を許さず、全部乘合自働車を以て至捧して居り、漸く、僅かな地下鐵道に依て高速交通を營んで居り、紐育の下町附近では、全市の高架地下鐵道が此處に集中して居りますが、道路狹隘なるため、路面電車は勿論、自働車すらも充分入込むことが出來ぬのであります。此等の大都市では、市の中央部に高架地下の鐵道を新設するは、多大の工費を要するので容易に實現されず、郊外に向ては盛んに延長新設せられて居ります。其他の都市に在りては、高架地下鐵道の設備なく、路面電車や自働車では道路上の交通が繁激に過ぎ、敏活なる運轉困難なるため各所に地下高架の計畫がありますが、何れも永久建造物の建連りたる場所では、其實現を見ること容易でないのであります。

翻て、我邦大都市の現狀を觀れば、最近に於て永久的高層建物の新築せらるゝもの增加したれども、歐米都市に比較すれば、未だ木造低屋の都市と謂ふも差支ない有樣で、高架地下鐵道新設の障碍となるべきものがないと言ふことが出來ます。最近、地價暴騰の事實はあれども、歐米都市に於ける市部のそれに比較すれば、可なりの間隔があるのであります。歐米都市の高速交通機關は、思ひ切て一步を先んじたるものが、今日の地下高架となりて、多大の利便を享けて居り、一步立後れたるものが、今日の窮地に陷りて、實現容易ならざる狀態にあるので、我邦に於ては、今日に於て進んで其施設を爲し、十二分の分布と設備とを實現せざれば、遠からずして歐米都市の轍を踏まねばならぬことと思ひます。

歐米都市の現在高速鐵道も容易に實現したので

はなく、調査を重ね、議論を闘はし、可なりの年月を經て、幾多の困難を排し、漸く今日の盛況を呈したので、最初より順境を育つて來たのではありませぬ。然し、一旦實現した後には、瀕りに延長增設せられ、其利便を忘るることが出來ざる狀態にあるのであります。尙、營業上の經濟問題に對しても同樣で、特に戰後勞働賃金暴騰の爲め何れも悲觀すべき現狀にありますが、盛に增設工事の進捗するのを見れば、必ずしも悲觀すべきものにあらざるを証するのであります。我邦に於ても少しも變りはないものと思はれるので、一時の難關を突破して一時も早く其實現を希望して止まない次第であります。

市內高速鐵道の設備、路面電車の現狀は、何れも都市毎に各其特色を有し、相當に愉快と利便とを與へ、安全なる高速交通機關として羨望に耐へざるものでありまきが、餘り珍しきものでないので、市俄古市に於て其中樞部たる『ループデイストリクト』の殆んど全部の街路に亘り、地下約四十呎の處に敷設せられて居る貨物運搬用地下鐵道に就いて、其大要を記して見たいと思ひます。

斯の地下鐵道は、貨物專用の電氣鐵道で、全部幅六呎高さ七呎半の混凝土馬蹄形隧道より成り、軌隔二呎の單線軌道を敷設し、六噸積貨車七臺乃至十臺を電氣關機車で牽引し、盛に市中の各建物各停車場、及郵便局等と連絡して、貨物、郵便物石炭、石炭殼、及地下掘鑿土砂等を運搬し、其區域は『ループデイストリクト全部ヨリ、『シカゴ』川及其南北支流を越へて、南北約三哩、東西約一哩半に亘り、各街路の下を蜘蛛巢狀に分布せられ其延長六十哩以上に達して居る珍しき地下鐵道で今日迄餘く識られて居らぬ可愛らしき而も極めて便利なる設備で、市俄古市では可なり重要なる輸送機關と成り、且つ道路上の貨車交通を節減する不可思議なる施設であります。隧道內は、空氣清鮮、夏冬共に溫度の變化なく、常に約五十五度を保持し、雨雪の虞なく、安全正確に、且つ迅速に其輸送を爲し、直ちに建物の地下室に搬入するを得て、道路上に於て雨雪寒暑と闘ひ、塵煙を犯し混亂の極に達せる路上を運搬するの不便と較べ、

到底比肩する價値なしと稱して居ります。

特に、菓物、鷄卵、肉類の、腐敗し易き品物、及家禽等の生物輸送に、最も適當なりとのことであります。

市俄古市の地質は、『ミシガン』湖畔にありて、餘り良好ならざる青色粘土層で、斯の地域は、十階、十五階の高層建物を以て埋められ、市内唯一の繁華地帶であります。從つて、此隧道建設工事は、建物の基礎を毀損沈下せぬ樣に隧道を掘鑿し鐵製型枠を置き、掘鑿面と型枠との間に、强大なる壓搾空氣にて混凝土を押込みて建造せられるので、其後何等の支障を起さず、今日迄安全に使用せられて居ります。

隧道内の排水設備は、七十餘箇所の電氣吸上喞筒を設置し、餘水を下水道に流し込むことになり火災の際、其建物防火用に使用せる多量の水が隧道内に流入するを防止するため、建物地下室との連絡路等には、全部完全なる防水扉を設け、火災の折には、直に之を閉鎖することになつて居ります。又、隧道内通風には、特別の設備は設けられざるも、絶へず運轉せらるる列車進行のため、各所に設けられたる竪孔に依り、自然通風をなすことになつて居り、完全に行はれて居ります。

前述の如き小隧道より成る地下電鐵線路は、殆んど斯の地區内の全部の街路の下四十二呎乃至四十五呎（隧道底面高なり）の處に敷設せられ各所に分岐線貨物卸側線を有し、軌道交叉箇所百四十、『ポイント』の數千數百箇、排水管延長三十一萬呎餘を有し、線路延長六十餘哩にして、『セントラルステーション』『デイアボーン、ストリート、ステーション』『ラ、ザール、ストリート、ステーション』『バルチモア、オハイオ、ターミナル、ステーション』『ユニオンステーション』等を連絡し『フエデラル、ビルディング』にある中央郵便局、市役所、各銀行商店會社、ホテル等無數の建物に連絡し、二十七箇の鐵道會社の貨物停車場と接續し、或は斜坑に依り、或は昇降器に依り、貨物授受設備が遺憾なく完備されて居るのであります。前述各建物間の輸送の外、一般公衆の貨物取扱のため、斯の地區の外圍部に於て、四ヶ所の一般貨物停車場を設

け、一般公衆荷物を受渡すことになつて居ります即ち、『シカゴ』川の西部に對しては、『ウエスト、ヂヤクソン、ブルヴアールド』に一箇所、繁華地區の北方及『シカゴ』川の東部に對しては、『ディアボーン、アヴエニユー』と『ノース、ウォーターストリート』の交叉點に一箇所、といふ樣に全部で四ケ所に停車場を設け、小さな小荷物一箇でも取扱ひ、或は之を鐵道停車場迄送り置きて、之を其の停車場で受取り、或は鐵道停車場で預けて、此等の停車場へ受取り行く等、極めて便利で簡單なのであります。尙、鐵道停車場と郵便局間の郵便物の輸送、各建物と石炭停車場間に、石炭運搬、各建物より出る石炭殻及塵芥の輸送、又は建物の下より出る掘鑿土砂の運搬等、各種の役目を勤めて居り、石炭殻、土砂、塵芥等は、現に埋立工事中なる『ミチガン』湖畔の『グランド』公園及『フイールド』博物館附近空地の埋立に運搬利用して居ります。

斯の小隧道内の貨物列車は、一定の時間割と運轉系統に由り、午前七時より午後五時迄絶へず運轉して居り列車數は六百列車にも達して居り、更に石炭及石炭殻の運搬の如き特種のものは夜間運轉をなし、其他、特別の時間に運搬を要するもの或は臨時のものに對しても、都合好く其運搬を取扱て居ります。而して、列車運轉は、完全なる電氣信號設備で、複雜なる交叉點等でも、毫も混雜を釀し事故を起す樣なことは全く無いといふことであります。尙、列車の運轉は、係員が電話で通信をなして、正確に運轉を指揮、機關車の派遣貨車の轉送等を取扱ひ、急行を要するものは、急行列車に積込み、其行先に依り種々列車の編成を行ふのであります。

機關車の大さは、三十馬力乃至五十馬力で、貨車の大さは、幅四呎長十二呎位のもので、積載量は約六噸、石炭の如きは、一車四噸を積んで居ります。隧道内は電燈を点火し、点燈數三千燈に達して居ります。

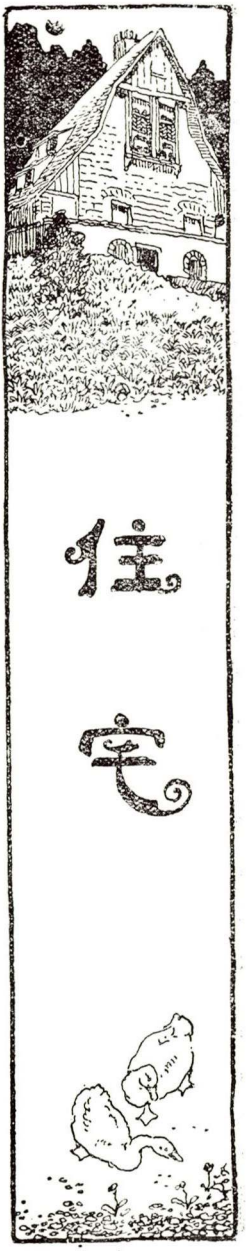
既に述べたる通り、斯の地下電鐵は、他の都市では見られぬ珍しきもので、可愛らしき程小さい隧道ではありますが、一年間に道路上及鐵道より

來る全貨物の約三分の一以上を運んで居るといふことで、一寸觀造することの出來ぬ大役を勤めて居るのであります。最後に斯の隧道の歷史に就いて一言しようと思ひます。斯の隧道は、千九百一年に、『イリノイス』電信電話會社が市の特許を得て建設に着手し、千九百三年には線路延長二十哩に達したるが、資金缺乏して工事を進捗することを能はず、『イリノイス』隧道會社なる新會社の買收する處となり、千九百四年に『シカゴ、ウエアハウス、エンド、ターミナル』會社組織せられて、鐵道との連絡及諸建物との連路設備を建造することとなり、斯の二會社協同して、線路の延長、鐵道停車場及各建物等との連絡設備を築造し、千九百九年には、六十一哩に亘る全線路の工事を完成するに至りました。全財產額は約四千萬弗といふであります、千九百十二年に至り、『シカゴ、トンチル』會社が『イリノイス、トンネル』會社の財產及權利を買收して今日に至りました。

前述の如く、斯の地下電鐵は、其貨物輸送量より積れば、毎日鐵道貨物の約三分の一を輸送し、道路上通過貨物の往復約五千五百輛分を運搬するを以て、現に繁激に苦める『ループ、デイストリクト』地區に於ける道路上交通を節減し、道路交通問題に貢獻する所大なるを思ふ、といふことでありました。

斯る種類の地下電鐵は、其工工費も比較的少く日を追ふて混亂狀態に陷らんとする道路上交通問題解決のためには、至極面白い施設と思ふのであります。特に、路幅狹隘なる我邦の都市に在ては一考に値するものではないかと思ひます。都市に於ける各種の習慣、貨物分布の狀態等、歐米都市とは著しき相違あり、富の程度、勞働賃金等にも多大の關係ありて、直ちに斯る施設を適當のものなりといふことは出來ざれども、我邦現下の趨勢は、急轉して歐米都市に倣ふが如きことになりはせぬか思はるるので、參考のため、市俄古には斯る珍しきものがあるといふことを紹介したに過ぎないのであります。

× × ×



Y氏新營の邸宅

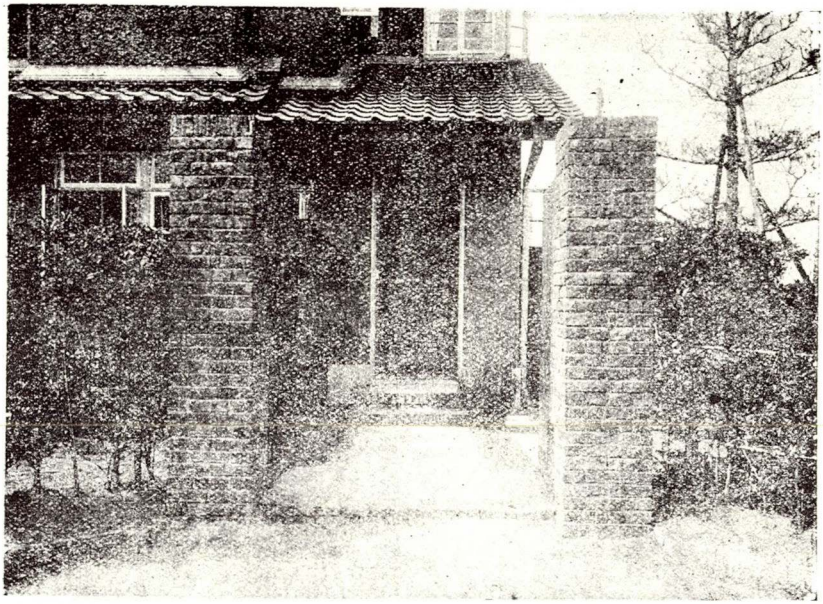
（口繪參照）

最も要約されたるPlanning
日本座敷の氣分を何處迄も保存して

それがし

Y氏は建築家であつて、此處に紹介する同氏の新邸は、無論同氏の設計に成つたものである。邸は南大阪の丘地、遠く近く、蜿蜒たる生駒山脈と、双子、葛城、金剛の山稜を模糊の裡に望み、眸下に、中河の平野を收むる勝景の地を占めてゐる。碧波と深か緑のうねりを見るがような田圃の中に、鈍朱色せる緩角度な屋根の浮き出てゐる、斯の新邸は、相當に印象的なものである。

邸の外觀は、稍コテージ風のもので純然たる洋式ではあるが、其内部は、日本建築の型を充分保存して、其處に洋式を取り入れたといふよりも、在來の日本式な座敷の缺點を改善した點にY氏の



玄　關　（直前突き當りが階段で二階の居間に通ずる）

理想が具現化されてある。

先づ、内部の構造全部を通じ、孰れとして、常に用ひられてゐない處はない、といふ要約的なDesignこそ、斯の建築に對するY氏の中心的理想であつたらしい。斯の一事は、本誌の口繪に掲げたPlanを覽れば、何人も首肯する事であらうと想はれる。

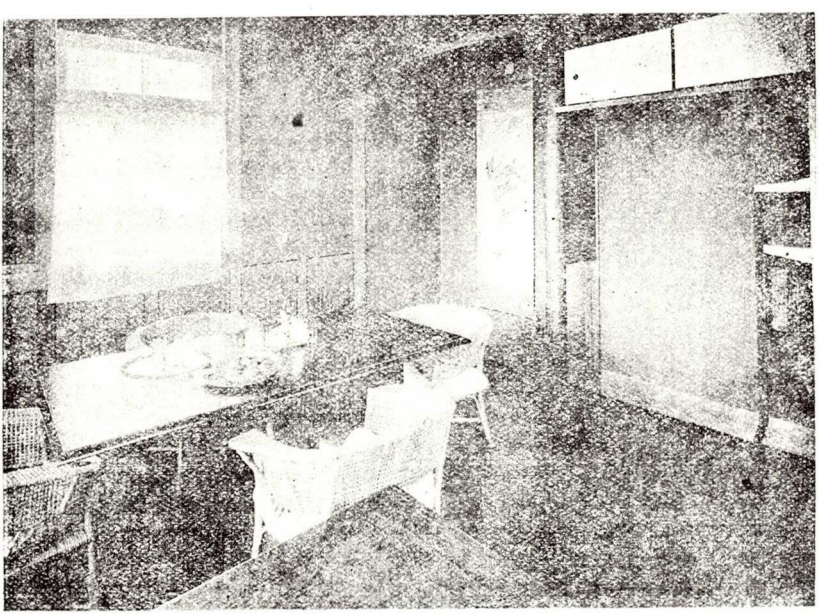
普通に洋風建築となれば、階上と階下の部屋の配置が、大概の場合、階上は寢室其他の、謂はゞ消極的用途の部屋に用ひられ、接客室や居間や書齋抔は、無論階下に設けられてゐる樣である。Y氏の新邸は、其反對に、階上をそれ等の積極的用途に供せられる部屋に用ひられてある。果して其長所が孰れに在るや否や、記者には判らぬが、日本に於ける洋風構造の多くの場合、尙ほ且つ脫靴するように出來てゐる現狀では、特に寢室以外の部屋を階下へ設くる理由の多少薄弱になることを覺ゆる。況して、成るべく我等日本人在來の慣習や建築費節約の關係抔に觀れば、階下を寢室其他の消極的な用途の部屋に用ゆるのは、可なる事

であらうと想はれる。

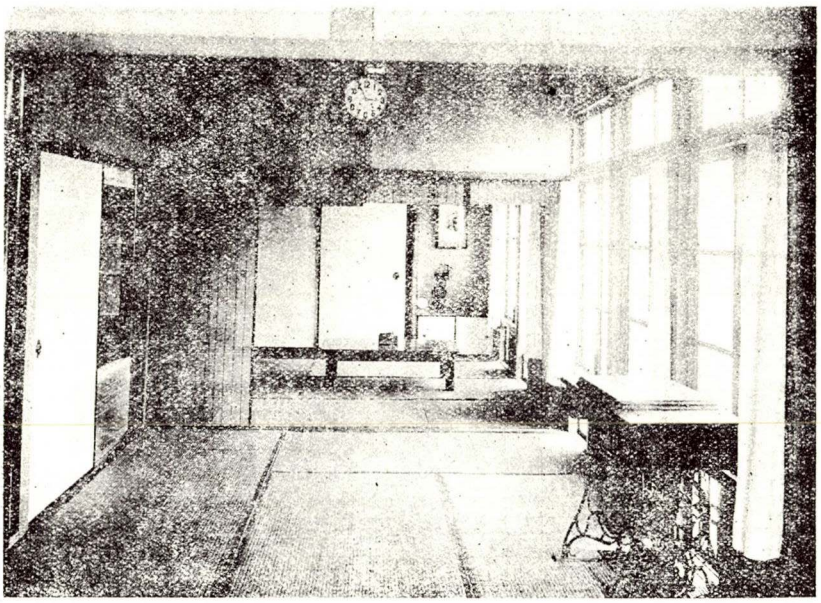
Y氏は巻頭挿入の平面圖に示してある樣に、階上に八疊程の部屋を取つて、此處が、氏の居間であり、接客室であり、乃至は書齋である。部屋の中央に一脚の大卓子を置いて、數脚の椅子を配されてゐるが、床框のない例の折部式な床を設けられて、其部屋全體が平面的に一體を成してゐるから、椅子の配置は幷う不調和に感せさせないと同時に、日本座敷の氣分を充分味ひ得て、寧ろ新鮮さな感じを與へる。

外開き硝子窓に、蟲除けの纖細な金網戸に、桐材?の腰羽目に、其處には、洋風氣分の濃きものあるも、それ等は、何んとしても、大體は洋式化するの外なき我住宅の現狀として、當然取り入られなければならぬ樣式であらう。併し、氏の屋室のそれが、寔に格好よく均勢を有ちて、奈何にも日本座敷の淡い氣分を有つてゐる事が、氏の苦心の跡を窺はれる。

階下は、玄關取ッ付けの階段より折れ、廊下を挿むで、女中部屋とも臺所部屋ともいふような室



(上階)齋書兼室客接兼間居



（階下）居間兼寝室（中央硝子戸の下がポーチ左に見ゆるのは食堂）

と、炊事場等を控へ、四疊半、六疊、四疊半の純然たる日本部屋の襖で間切りされ、中央の六疊より直ちに、剪裁に接して設けあるポーチに通じ、西端の四疊半に接して、三疊程の「子供室」を設けられてある。

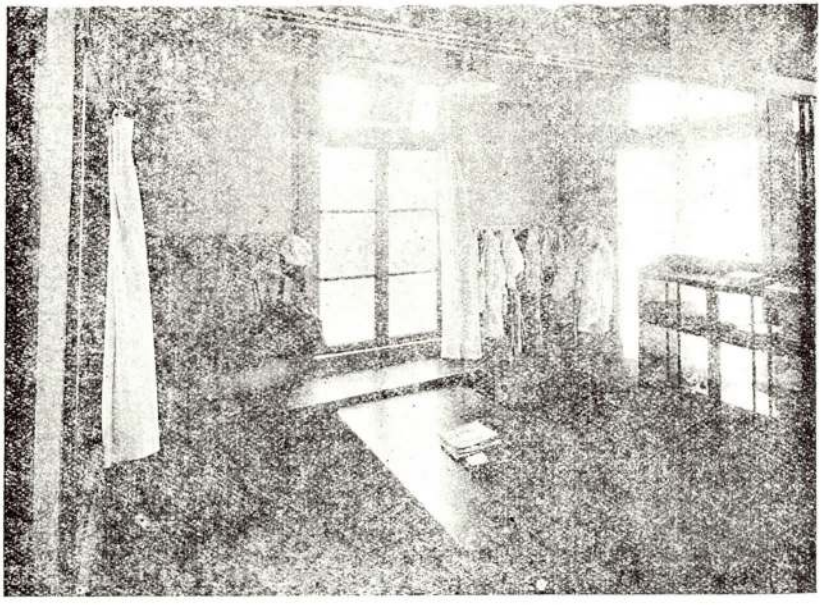
之等の部屋の有様は、純然たる日本座敷であるが、此處に意を用ひられてゐないものゝ一つは、一枚の障子をも用ひられてゐない事である。日本障子に就いての長所と缺點は、今此處に考慮するの限りでないが、障子代りに、悉く外開きの硝子戸と成し、而して、硝子戸の下高さ一尺餘りを引き違ひ戸として、其外部を組み格子様な構造とされゐることである。

是は、從來の障子が腰板の部面に光線を遮ぎられゐのを改良されたものと想はれゐが、他面に於ては、掃出し口の用をなして、確に氏の創案たるを失はない。斯るが故に、室内に於ける光線の射入は申分のない狀態で、寧ろ明るさ過ぎる位に思はせる。而して、郊外の關係上、此處にも硝子戸の内面に、纖細な金網枠を用ひられてある。

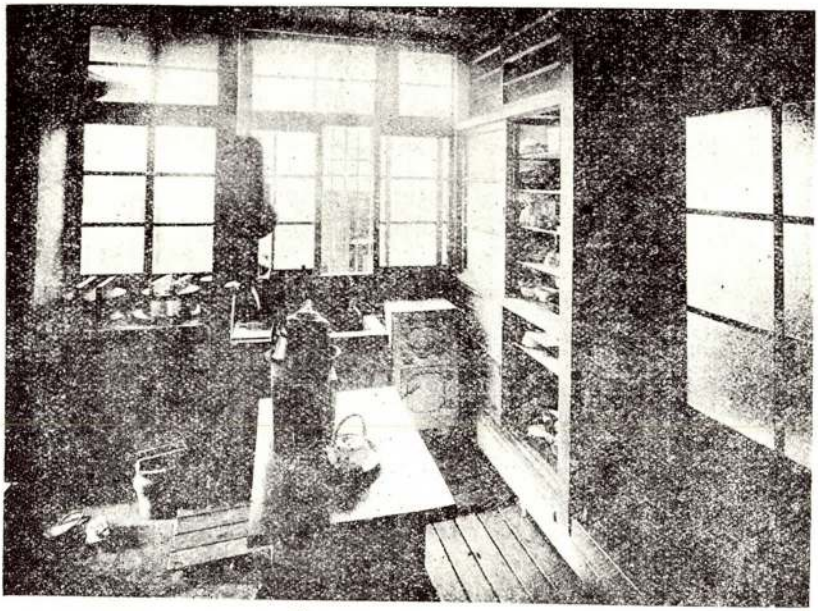
天井其他の木材は、無節の物のみ用ひられて、打ち見たる處、奈何にも選擇に餘程な意を用ひられてゐる樣であるが、就も米杉と米栂を用ひられてゐるのだから、目に立派さを感ずる程幷う費用は掛つてゐない、とのことである。其他門柱や剪裁の仕切り杯に用ひられてある煉瓦の如きも、「燒過ぎ」の古煉瓦?を素地の儘用ひられてある如きは、奈何にも趣致に富むで、威めしさでなく温雅さを感じさせる。

殊に、外觀の洋風建築なるも、其處に柔か味を見せて、多少日本家屋式の氣分を偲ばせるものは其屋根の角度である。日本に於けるコッテーヂ類似な建築は、北歐邊の會堂建築の樣な、又日本で云はゝ、雪國の建築に見るような急角度の屋根を見せてゐるが、氏の新邸は、口繪に示す通り、僅に三十度位な緩角度を有たせたのは、寧ろ一創意ではあるまいか、と想はれる。

大體に於て、凡ての點に住宅に對する氏の改善的理想を象徴されあるが、就中Planningが、非常に要約的で、どの室も、どの場所も、殆んど恒に用



子供室（上階階下居間のミシンの見ゆる室の向つて右手に續く）



炊事場

いられてゐない事のないといふように出來て居りそして、就れの室としても、又室と室との聯絡に於ても、謂はゞ、ソツの無いように出來てゐるのが蓋し、斯の建築に稱ふべき主なる一つだ、と記者は考へた。

建坪は、階上十坪、階下十二坪、室としては六室三十疊許の内、階上の居間兼接客室を除く外全部疊敷で、家族五六人でゐらつやしるようであるから、丁度手頃だと思はれる。細部に亘つての紹介は今此處に竭すことが出來得ないから、他日機會を見て更に紹介する事とするかも知れない。

終りに、氏の談によれば、從來に於ける住宅建築は、多くの場合子供や家族といふ事に餘りに注意されずして、主もに大人本位に設計されてゐるようであるが、氏も亦斯の點に多少な遺憾を覺へたとの事である。例へば、何んでもないようで實は隨々不便を見る事は、電燈の開閉器や便器の如き、或は帽子掛のようなものでも、子供といふ事を考慮に入れて、其取り付けの位置を決める必要がある、との事であつた。



大阪ビルディング細見（下）

華城閑人

室使用に關する諸經費

前號に於ては、大阪に於けるビルディングの總數、種別、坪數、構造、階數高度室數及室坪數に就いて叙說し、終りにビルディング各箇別細觀として、各ビルディングの竣工年月次より觀たるビルディング建設の趨勢を窺ひ、次にビルディング各箇の階數及高度を叙し、其各箇別建築費を揭げて、其稿を結むだ。

次いで、此處に敍記を逸すべからざるものは、實に、其使用料の關係奈何である。蓋し、云ふまでもなく、斯の一事は、ビルディング經營の經濟的死命を制するものであることは、經營者の對投資採算と、使用者の利便奈何に關するからである。全市三十六箇七百十四室のビルディング中、調査不明なるもの一箇九室を除き、三十五箇七百五室に對する使用料は、其總額に於て、一箇月七萬七百一圓三十九錢に當る。之を、單に室數の平均に徵すれば、一室に付一百圓二十八錢と成り、更に各室を通じたる室坪の平均を觀れば、九圓六十九錢坪になる。而して、使用料の坪當りの、上層階

に到るに從ひ、漸次遞減されあるは、利便關係に於て然るべき事と想はる。但し、室使用者の負擔は、單に室坪數當の使用料に止まらずして、例へば電燈費、衛生費、警備費、電話器費、暖房費、水道費等其他の負擔あるを知らねばならぬ。斯くて之等の使用料中最高なるものは、東區北濱ビルディング三階の一室三十三圓三十三錢坪と、最低なるものは、北區安治川西垣貸事務所の地下室二圓十六錢坪である。

室使用に關する諸狀況

されど、それ等多數な各室の實際使用されある狀況奈何は經營上の實績を決するものなるが故に、今之を一瞥せむ歟

業種別	西區			南區			東區			北區			計		
	使用者數	室數	坪數	使用者數	室數	坪數	使用者數	室數	坪數	使用者數	室數	坪數	使用者數	室數	坪數
			坪			坪			坪			坪			坪
有價證券賣買仲立															
輸出入商	三	三七	一九一、六五〇	三	三	二九、三〇〇	七	三三	八二三、四三〇	四	五	四二、〇〇〇	九一	二九	八二三、六三〇
物品販賣	二六	三四	三〇八、三八	二	二	一〇七、四五〇	二	二五	一六六、一二一	二〇	二五	三〇六、三五二	七〇	八五	八八七、九九三
各種工業	八	一六	二一〇、四七〇	一	一	二四、〇〇〇	五	一五	三六、五二八	七	二六	二八七、三五〇	三一	五八	九〇八、三四八
諸機械器具販賣	一三	一八	一七三、一八〇	八	八	七六、〇九〇				一五	一五	一九、〇七〇	三六	四一	三六七、三四〇

去る四月(?)現在に於て、七百十四室中九十五の空室を有する。斯の使用料豫算額一萬二千六百七十六圓三十錢、室數に於て僅に一割四歩五厘弱、使用料に於て、一割八歩減を見るに過ぎない。要するに、凡ゆる方面に不景氣風の凉を送る昨今、ビルディングの繁昌斯くの如しとせば、其原由の奈何は姑く討究せずとするも、最も面白き現象と謂ふべきである。

然らば、それ等使用者の、奈何なる種類のものであるかは、次いで考ふべき事柄である。之を一言にして竭さば、凡ゆる種類の業體を包容してゐると云はゞ足れり、更にそれを細觀すれば、ざつと左記の通りである。

| | | |

海軍造船監督官事務所	一	三	二七、九六〇	一	三	二七、九六〇			
齒科醫診療所	一	一	四〇、七一〇	一	一	九、三七〇	二	二	五〇、〇八〇
化學研究所	一	一		一	一	七、四〇〇	二	二	二四、一六四
無職	一	一	九、〇〇〇				一	一	九、〇〇〇
玖馬共和國領事館	一	一	四、七一〇				一	一	四、七一〇
共同	六	一	六、〇〇〇				六	一	六、〇〇〇
雜（飜譯、商品券分賦賣、諸工、	二	三	一九、六〇〇	一	一	五、三五〇	三	四	二四、七五〇
計	九〇	一四九	一、七四四、五八二	四八	四六	五〇三、三四〇	一四六	二一	二、二三八、九三三

文化的設備に關する瞥見

既設のものと、建築中のものとを併せ（其文化的設備を一渉り概觀すれば、三十六箇のビルディング中、公衆食堂を有するもの十一箇所、ホール一箇所、時間貸應接室、倶樂部、賣店、寫眞用暗室、理髮室、酒場、郵便局出張所、瓦斯、電氣、電話機等あるも、エレヴエーターに到りては、三階以上十階四、五十尺より百二十三尺に到るもの二十二箇中、僅に二十臺と貨物用二臺を有するに過ぎない。卽ち、それ等ビルディング一箇所に付エレヴエター一臺の割りである。若しそれ、全三十六箇所に平均すれば、貨物用と共に、約三箇所に二臺の割りに過ぎない、蓋し、貧弱なりと謂ふべしである。一體、ビルディングの文化的設備は、レストラントにしろ、理髮室にしろ、乃至は電燈電話から、瓦斯に至るまで、皆なそれ〳〵報償がある。ホールの使用に於ては云はずもがなである。謂はゞ、それ等の設備は孰れも消極的生產力を有してゐる、と觀て差支へない。然るに、エレヴエターに於ては、それ自體に相當な資金を固定し、而も、電力と運轉手を要する、といふ採算的な考へからでもあるまいか、他の文化的設備に比して、エレヴエーターの數の如く割合に設備されてないのは、怎うし

たものであらうか、記者は、斯の一事を見て、餘りに跛足な文化的設備に聯か苦笑を禁じ得ない思がある。エレヴエーターの如きは建築費の一部たるべき性質なものだ、他の食堂設備抔と同樣に取ツて附けの設備たるべきでない。エレヴエーターを殷に用ひられなければ嘘だ。事の序だが、以上の文化的設備を見て尙ほ遺憾に思ふ事は、相當なビルディングにして、銀行や郵便局の出張所のない事である。何んでも今度出來る堂島ビルディングには、斯る設備までするといふ事だが、他にも凡て事務其ものと、事務所生活其ものを要約し得る設備は充分に取り入れてこそ、其處にビルディング本來の性能を發揮し得るのではあるまいか。

終りに、前號以來、ビルディングの細見を誌せし事項を歸納して、それを鳥瞰的に識るため、左に其一覽表を掲ぐる事とする。斷つて置くが、諸表『名稱』中、各箇に數字を以したるは、乙表と對照せむ爲である。

ビルディング鳥瞰表

甲表

名稱	所在地	種類	階數	高サ	敷地坪	建坪	延坪	エレベーター
西區								
一 範多商店	川口町	兼	二階	三〇、〇〇〇坪	四一、〇〇〇坪	二〇一、九〇〇坪		
二 南海晒粉ビルディング	京町堀通一	同	地下室共四階	四五、〇〇〇	九六、〇〇〇	七三、〇〇〇	二九二、〇〇	
三 日支合商棧	川口町	專	二階	三〇、〇〇〇	一八八、七五〇	一二五、九四〇	三七七、五〇	
四 川口ビルヂング	同	同	二階	約三〇、〇〇〇	約七〇〇、〇〇〇	約三一〇、〇〇〇	約五〇〇、〇〇	
五 大阪鐵商倶樂部	新町通四	兼	本館三階附屬二階	七七、〇〇〇	三七〇、〇〇〇	一〇、四八〇	三五、三五	
六 增田正雄商店	江戸堀南通四	同	二階	三五、〇〇〇	一〇六、七一〇	六四、二〇〇	二一〇、〇〇	
七 阪上ビルヂング	幸町一	同	二階	三三、〇〇〇	三三、〇〇〇	二八、〇〇〇	五六、〇〇	

八	住友銀行川口ビヂイング	本田通一	同	五階	六九、六〇〇	三九、九二〇	一八三、一四〇	九一五、六七	
九	岡橋貸事務所	北堀江三番町	專	三階	三八、〇〇〇	六三、五六〇	四七、五四三	一四二、五〇	
十	日本海事工業株式會社	江戸堀上通一	兼	地下室共四階	三六、〇〇〇	一四三、〇〇〇	八五、〇〇〇	一六三、〇〇	
十一	日本海上保險林式會社	江戸堀上通一	同	同六階	一〇三、〇〇〇	五四七、〇一〇	一八三、一三〇	一、〇八八、〇〇	三
	計		專三兼八			二、九一六、九〇〇	一、三九三、二九〇	三、八七〇、〇三	五
南區									
十二	四ツ橋建物株式會社	鰻谷西之町	兼	本館三階附屬平家	三三、〇〇〇尺	四九九、一〇〇坪	二七〇、九三〇坪	七一五、四九	
十三	愛國貯金銀行ビルディング	長堀橋筋一	專	三階	四四、五〇〇	一〇八、八一〇	七一、四〇〇	一八〇、二一	
	計		專一兼一			六〇七、九一〇	三四三、三三〇	八五九、七〇	
東區									
十四	大阪株式取引所附屬館	北濱二	兼	地下室共四階	三九、三八〇尺	二〇九、〇三〇坪	一三〇、六四〇坪	四〇七、六一	
十五	三井銀行貸事務所	高麗橋筋二	同	同五階	六四、〇〇〇	約二〇〇、〇〇〇	二五八、二一〇	四二六、一二	一
十六	泉ビルデイング	北濱四	同	三階	三七、〇〇〇	五二、〇〇〇	四三、一二〇	一三〇、四〇	
十七	加島銀行船場支店貸事務室	北久太郎町二	同	三階	三五、〇〇〇	一五一、九三〇	一三一、三三〇	三〇七、四六	
十八	大阪證券交換所ビルヂング	高麗橋筋一	專	二階	三〇、〇〇〇	二九五、〇〇〇	二九五、〇〇〇	五〇〇、〇〇	
十九	黒川ビルデイング	北久太郎町二	兼	地下室共四階	四三、四〇〇	三五〇、〇〇〇	三三、五七〇	七三四、三五	
二十	淡路町ビルデイング	淡路町三	同	同六階	五九、九二五	二九六、七二〇	一九一、三三〇	七九五、七七	一
廿一	北濱ビルヂング	北濱二	專	同八階	九九、〇〇〇	七一、二三〇	四五、七一〇	三一七、七三	一
廿二	神田ビルデイング	今橋二	兼	同五階	四七、〇〇〇	三七八、二五〇	三三、三〇〇	一、〇六六、六〇	一
廿三	北濱野村ビルデイング	北濱一	同	同九階	一三、五〇〇	一四六、〇四〇	一二五、〇九〇	一、〇八八、三六	三

乙　表

廿四	安土町ビルデイング	安土町四	同	同四階	四四、五〇〇	七八、四八〇	六二、二五八	二五五、〇〇			
廿五	大阪商工社ユニオンビルヂング	大川町	専	二階	二九、〇〇〇	二九、〇〇〇	四五、〇〇				
廿六	報徳銀行ビルデイング	今橋二	兼	地下室共五階	五八、九四、	九七、〇一〇	七七、〇〇〇	三六三、九〇	一		
	計		専三兼一〇			二、四一四、六九〇	一、八〇五、四八	六、三三八、四八	一		
北區											
廿七	百三十銀行曾根崎支店貸事務所	曾根上三	兼	三階	七〇、〇〇 尺	二三、〇〇〇 坪	九、〇〇〇 坪	約二五〇、〇〇			
廿八	西垣貸事務所	安治川上通一	専	地下室共三階	三五、二〇〇	三五、二〇〇	四〇、〇四五	六〇六、〇〇			
廿九	浪華倉庫ビルデイング	堂島濱通三	兼	三階	七八、〇〇〇	四四、〇四五	三四、二三〇	四八〇、四八			
三十	福徳館	堂島濱通一	同	地下室共五階	八〇、〇〇	三五、七四〇	一六、一〇〇	八五、一〇〇	一		
卅一	中之島ビルデイング	宗是町	専	二階	三五、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	六五、〇〇〇	一九五、〇〇			
卅二	吉田ビルデイング	北野高垣町	同	三階	四五、〇〇〇	三八、〇〇〇	三五、〇〇〇	七五、〇〇			
卅	阪急ビルデイング	北野角田町	兼	地下室共六階	七五、〇〇〇	二三、八〇〇	八三、一九〇	四九九、七〇	一		
卅四	梅田ビルデイング	曾根崎上三	専	三階	三九、四〇〇	一三三、三四〇	九四、〇三〇	三三七、九六			
卅五	大江ビルヂング	絹笠町	同	地下室共六階	七八、〇〇〇	三〇六、九二〇	三三八、六一〇	一、一五六、一九	二		
卅六	大阪毎日ビルデイング	北區堂島裏町二	兼	同六階	九二、五〇〇	一、一二四、八五	九四九、六〇〇	三、六九七、〇〇	二		
	計		専五兼五専三兼三			二、九六六、九八五	二、二四六、五五〇	八、〇四八、三三	六（二）		
	合計					八、九〇六、四八五	五、七七七、六五八	一九、一四二、三三	二（内建物用二）		

	室數及其大サ				使用料					
	室數	坪數	最大室	最小室	平均	總額	一室最高	一室最低	一室平均	一坪最高	一坪最低	一坪平均
一	四	三九、五〇〇坪	一五、〇〇〇評	七、五〇〇評	九、八〇〇評	一八五、〇〇〇円	六五、〇〇〇円	三五、〇〇〇円	四六、二五〇円	五、五五〇円	四、三〇〇円	四、七〇〇円
二	八	一四六、七〇〇	二七、〇〇〇	一〇、七〇〇	一八、三三〇	一、〇三〇、〇〇〇	三八〇、〇〇〇	八五、〇〇〇	一二九、五〇〇	八、〇〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇
三	三	二〇〇、〇二〇	八、〇〇〇	三、〇〇〇	三、七五〇	九六、〇〇〇	六〇、〇〇〇	三五、〇〇〇	三〇、〇〇〇			八、〇〇〇
四	四八	二九二、五〇〇	二五、〇〇〇	二、〇〇〇	六、一〇〇 約	二、三〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一六、〇〇〇	四八、〇〇〇	九、〇〇	七、〇〇	八、〇〇
五	九	六一、五〇〇	九、五〇〇	四、四〇〇	六、八三〇	四九八、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三六、〇〇〇	五五、一〇	一一、六二	八、〇〇	八、〇〇
六	七	一一三、六〇〇	三五、〇五〇	五、四〇〇	一六、一〇〇	四〇九、〇〇〇	不詳	五〇、〇〇〇	五七、一四	九、二六	二、七五	三、六〇
七	六	三三、三五〇	五、八〇〇	二、八〇〇	三、九〇〇	一八、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二、〇〇	三、〇〇	八、六〇	不詳	七、六五
八	二五	三七四、〇二六	二七、七六四	九、〇七八	一四、九六〇	二、九九七、〇〇〇	三四四、〇〇〇	八〇、〇〇〇	一三〇、〇〇	八、七〇	七、五〇	八、〇〇
九	一四	九七、八一〇	一七、九四〇	一四、五二一		六〇〇、〇〇〇						六、一三
十	八	五五、四〇〇	一〇、八〇〇	二、三〇〇	六、九〇〇	四〇六、〇〇〇	一〇四、〇〇〇	二三、〇〇〇	五〇、七五	一二、〇〇	五、〇〇	七、三五
十一	一九	三〇三、一一〇	五二、六〇〇	四、四五〇	一五、九一〇	四、七〇三、〇〇〇	八四一、〇〇〇	六二、〇〇〇	二四七、五〇	一七、一〇	一三、七〇	一五、五二
計	二八〇	一、六二六、六六六			九、〇四〇	二、四九、〇〇〇						
十二	三五	三七五、八九〇評	三三、四〇〇評	四、五〇〇評	一〇、八五〇坪	二、四一〇、〇〇〇円	一四〇、〇〇〇円	一五、〇〇〇円	六八、九〇円	八、八円	四、三〇円	六、四五円
十三	一五	一六五、一〇〇	三七、五〇〇	二、〇〇〇	一一、〇一〇	一、〇八〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一二、〇〇	七二、〇〇	二六、六六	五、〇〇	六、七五
計	五〇	五五九、〇九〇			一〇、七八〇	三、四九二、〇〇〇						
十四	二六	二八八、四三〇坪	三二、六八〇坪	三、六一〇評	一七、九〇〇坪	一、一〇五、〇〇〇円	一四〇、〇〇〇円	五〇、〇〇〇円	六九、一〇円	六、〇三円	二、六三円	三、八六円
十五	八	二四〇、〇〇〇	五二、〇〇〇	九、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二、三一〇、〇〇〇	五二〇、〇〇〇	九五、〇〇〇	二九二、五〇	一〇、五五	九、〇〇	九、七五
十六	八	七二、五〇〇				四六〇、〇〇〇						
十七	六	六八、八〇〇	一〇、一四〇	四、七一〇	一一、四三〇	六七〇、〇〇〇	一九五、〇〇〇	四五、〇〇〇	一一、六〇	一〇、〇〇	九、五三	九、七八
十八	八〇	三二〇、〇〇〇	四、強	二、強	四、〇〇〇	三、五三〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	二〇、〇〇	四四、〇〇	一九、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇
十九	一五	二二四、〇〇〇	二一、〇〇〇	四、〇〇〇	一四、九〇〇	一、八四〇、〇〇〇	三一〇、〇〇	三〇、〇〇	一二、六六	一〇、〇〇	七、五〇	八、六〇

丙　表

（建築中のもの）

| | | |

名稱	所在地	種類	階數	高サ	敷地坪數	延坪	エレベーター	室數及其大サ 室數	坪數	最大室	最小室	開業豫定
堂島ビルデイング	北區堂島濱通一	專	地下室共一〇階	一〇〇尺	七五四、九二〇坪	六四四、四七〇坪	五、八九三、三二	七	二二五	四、〇八四、〇四〇坪	二、坪	大正十二年五月
梅ケ枝ビルヂング	北區梅ケ枝町	同	同 四階		一〇一、四二〇	七七、七〇〇	二七二、〇〇〇	倉庫	二五	五六、六五〇	五、三二〇	
計	二				八五六、三四〇	七二一、一七〇	六、一六五、五三一	七 倉庫	二四四 二五	四、一四四、五四〇 五六、六五〇	三、七〇〇	大正十一年六月

しぐるゝや南に低き

雲の峯



東京建築だより（三）

東京市の公會堂と日比谷公園——三菱銀行の新築

文學士　黒田鵬心

□近頃東京で建築界に最も關係ある一つの問題が起つてゐる。それは公會堂の建築に就いてゝある。東京市が首府として又大都市として公會堂を有しない事は、大なる恥辱である。尤も都市としての東京は、之れを歐米の主なる都市に比ぶれば恥辱を感ずる事許りで、公會堂は唯其の多い恥辱の一つに過ぎないが、我が國に於いても、既に大阪にあり、京都にもあるのに、東京にないのは恥辱中の恥辱と云はねばならぬ。

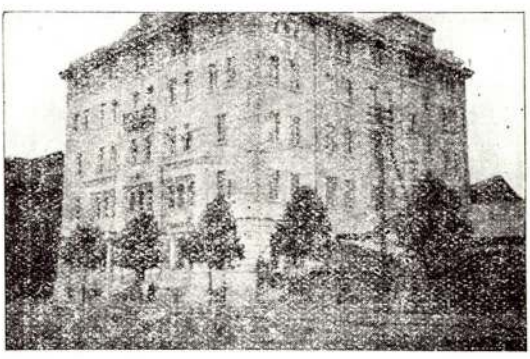
□其の公會堂が故安田善次郎翁の寄附によつて東京市に建つ事になつたのは、大に喜ぶべき事である。而して其の設計を懸賞募集によると云ふ事にも議論はない。既に建築費があり、設計は懸賞で募集されるとして、殘る問題は敷地である。

□東京市の公會堂の敷地として、後藤市長は日比谷公園内を指定し、市會も亦之れに贊成した。

而して內務省は東京府を經て之れを中止すべく命令した、問題は茲に大きくなつて來たのである。

□公園內に建てらるべき建築には第一に其の種類に制限がある。第二に其の外觀に制限がある。第三に其の大さに制限がある。制限といふ內にも公園內にあるべきものを除いて、あつて差支ないもの、あつてはならぬものゝ二種に分つ事が出來る。公園內にあるべき建築の『種類』は亭、喫茶店、料理店、音樂堂の如きものである。あつて差支ない建築の「種類」は、美術館、公會堂、旅館、學校、圖書館、劇場の如きものである。あつてならぬものは、會社、銀行、事務所（公園事務所を除く）工場、住宅等である。

□第二の『外觀』の制限といふのは、明瞭には云へないが、公園の美を損せず、寧ろ美を助けるものでありたいこと、即ち公園に應はしい外觀といふ事である。例へ公園にあるべき喫茶店、料理店の建築であつても、それが公園に應はしい外觀を有せず、公園の美に傷つけるやうなものであつてはならない。此の點て東京に於ける日比谷公園の松本樓、上野公園の精養軒などは、疑はしいものである。旅館であるが奈良ホテルの方がいゝやうに思ふ。



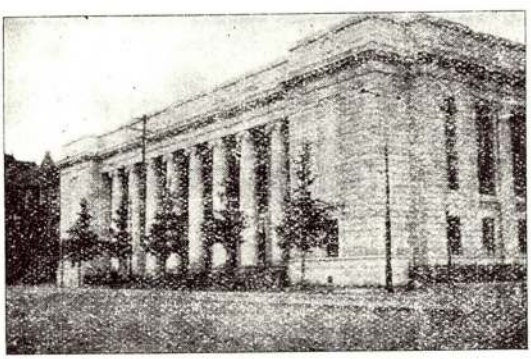
朝鮮銀行東京支店

□第三の制限は『大きさ』であるが、それは比較的の問題で、大きい公園には大きい建築もあつて差支ないが、小さい公園に大きい建築を建てる事は不可である。例へば一萬坪內外の公園へ千坪（一階）位の建物を建てる事は無謀である大きさの比例もとれないし、公園の面積も爲めに十分の一を失ふ事になる。公園內の總べて建物の建坪を合せて、公園面積の五十分の一を超えないやうにしたい。奈良ホテルも奈良公園であるから許せるが、あれを

日比谷公園へ建てるとしたならば何うであらう。其の不可な事は云ふ迄もあるまい。

□さて以上三種の制限に對して東京市の公會堂を日比谷公園へ建てるといふ事は如何に當嵌るかと云ふのに、第一に『種類』から見れば、あつても差支ない建築であるが、今回の公會堂は貸事務所を含んでゐるといふ事である。果して左樣ならば、在つてはならぬ種類の建築である。內務省が中止命令を出したのも當然と云はねばならぬ、併し貸事務所が、單に豫備室を學會、協會等の事務室に充てる位で、第二、第三の制限に適合すれば許せない事はない。若し昨今東京驛前に盛に建てられる貸事務所建築の如きものと公會堂とを併せたものならば斷然不可と云はざるを得ない。

□第二に『外觀』が公園に應はしきものといふ事は、懸賞で設計を募集する以上は、當然餘計に含まるべき事である。外觀が日比谷公園の美を傷つけない許りでなく、日比谷公園の美を助けるものでありたい。前號にも一寸述べた帝國ホテルの新築の如きは、日比谷公園の外に添へる建築であるが公園から見て如何にも面白く、日比谷公園にとつては一つの風物を增し、日比谷公園の美を助けてゐると云ふ事が出來る。此の點で帝國ホテルは位置をよく考へた建築であると云はねばならぬ、公園外の建築でさへ、斯くの如く公園の美に影響があるのであるから、公園內の建築は一層考へねばならぬ事は當然である。

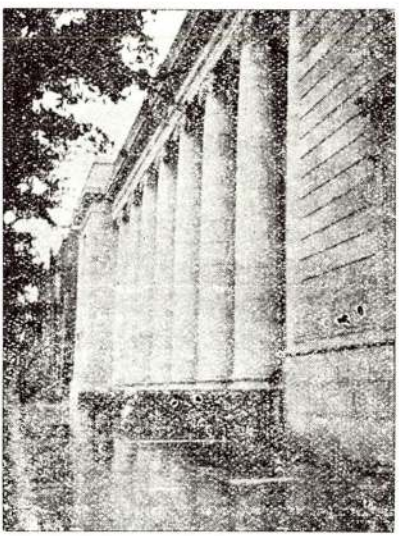


三菱銀行（その一）

□而して純粹の公會堂ならば、公園の美を助けるやうな外觀の建築とする事は容易であるが、貸事務所建築では、それは不可能と云はない迄も、甚だ困難である事は云ふ迄もない

貸事務所建築（内に公會堂を含むとは云へ）で、公園の美を助けない迄も、傷けない設計をなす建築家があるであらうか。建築の目的に忠實な設計をする建築家ならば恐らく出來ない事と思ふ。何となれば建築に於いて目的は第一で、外觀は第二であつて、公會堂のみを目的とする建築にして始めて公園の美を助ける外觀を供へる事が出來やうが、貸事務所を目的とする建築では公園の美を傷けない外觀を供へる事が困難だからである。

□第三に『大きさ』は、日比谷公園は約五萬坪あつて公會堂は約一千坪といふ事であるから、辛じて許し得る大きさである。勿論十分でない東京市の公園から千坪でも取る事は、公園の不足といふ點からは賛成し難いが、之れは將來他に公園を增加すればいゝと思ふ。二重橋前の廣場の如き、芝離宮前庭の如き、其の他築地邊にも海軍で使用してゐる土地に公園となるべきものがある。又現在の日比谷公園にしても、櫻田門に近き方面は、まだ能力を發揮して居ないから、それでも千坪位の埋め合せはつくと思ふ。



三菱銀行（その二）

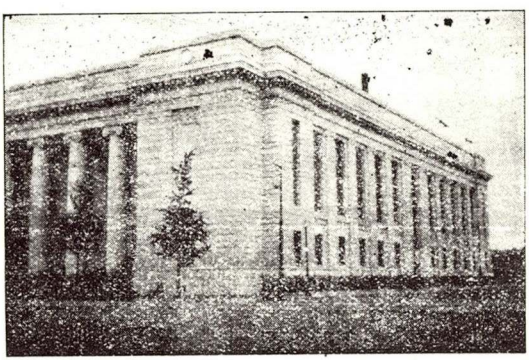
□猶千坪としても、日比谷公園の何れの部分にするかは、日比谷公園にとつて重大な問題であるこれは今の計劃では花壇附近になつてゐるやうであるが、圖書館の西側が最もよく、次いでは勸業銀行と向き合つてゐる角あたりが適當してゐると思ふ。

□これから前號で御約束の東京驛附近の新築について愚見を述べやうと思ふ。先づ第一に三菱銀行（東京府廳前）であるが、これは鐵骨を花崗石で包んだ建築で、殆んど貼付煉瓦ばかりの建築の中

に在つて異彩を放つてゐる。加ふるにクラシカルの樣式で、正面にアイオニック式の大石柱（高さ四十尺、徑五尺一寸）八本を立て並べ、堂々たる威風を持つてゐる。全體の形と云ひ、細部と云ひ單純で、小細工を弄したあとなく氣持のいゝ建築である。

□銀行として應はしい表現であるかと云ふのに、其の堂々として堅固の感を與へる所、又列柱と戸との間に餘裕があつて、多くの人を容るゝに都合よき所、其の正面に高い窓のある所など應はしいと云へるが、餘りに堂々とし過ぎてゐて氣の小さい人は一寸入り難いこれは大銀行であるから差支ないかも知れないが、もう少し親しみがあつてもいゝと思ふ。

□日本銀行を始めとし、三井銀行、村井銀行、森村銀行、住友銀行、加島銀行、臺灣銀行、朝鮮銀行等銀行の大建築も澤山出來たが、其の中、クラシカルの樣式を採つたものとして、日本銀行は傑作として許されてゐるが、此の三菱銀行も傑出した作である。ルヰサンス式によつたものでは、比較的小さいけれども森村銀行が傑れてゐる。四本の大きな柱を裝飾的に附けて、上を緩いアーチでペヂメントのやうにして纏りがよく、太い輪廓を持つた美を現はしてゐる。



三菱銀行（その三）

□併し森村銀行は、少し意匠の細か過ぎる點もある。例へば中央の時計の如きは、餘りに小さく、岡田君は曾て一ツ目小僧のやうだと評された事がある。之れに比べて三菱銀行は少しも細かい意匠を弄せず、實に整然たるもので、靜なる事林の如き感がある。

□朝鮮銀行東京支店は、臺灣銀行支店の前で、日清生命保險會社の隣に在る、殆んど四角な建築で頗る平凡で、しかも何等の面白味もないものである。正面の表現も銀行らしい所が無い。三菱銀行を見たあとでは餘りに興味がない。

唯此處寫眞を揭げて置くに止める。

附言　之等の寫眞は七月二日の朝寫したものであるが、曇つてゐる上に風が強く、建築類に重要な陰影を現はしてゐないのは遺憾である。

七月十三日夜　於東京青山

―幼稚園の保育と
建物から見た幼稚園（上）

小田切平和

口兒童前期の子供と兒童後期或は青年期にある子供とは、その性狀は勿論のこと健康狀態、敎育方針に於て全く相違して居なければならない事は茲に喋々する迄もないことである。即ち兒童前期の兒童を收容する幼稚園と、それ以後の兒童を收容する小學校とは總ゆる點から見るも之を同一視する事は可能ない。然も吾々が幼稚園なり小學校に籍を置いてゐた時分には、殆んど是等の點に就いては、顧られて居なかつたのである。試みに茲二十年乃至三十年前の敎育雜誌を繙いて見るがいゝ、果して其處には何んな事が論じられて居たであらう。曰く古典敎育と科學敎育との優劣如何、曰く敎育行政上の問題、曰く敎員と社會との關係などであつて『兒童は如何に取扱ふべきか』『兒童は如何なるものであるか』等兒童その物に就いて考へられ研究せられてゐるものは無い。

口外國に於いても科學的に兒童に就いて研究せられるやうになつたのは、決して古い事でなく十八世紀の末葉から漸次斯うした機運が向いて來た位である、と云つて決してそれ以前には兒童學者が無かつたと云ふのではない、古くプレトーはその『レパブリック』の中に……敎育者は先づ被敎育者の性質とその要求を探求した上で系統的の敎育案を立てねばならぬ……と云つてゐる。又ロックの『敎育論』も吾々は忘れてならぬもので、此の書がつい最近迄兒童の肉體的、精神的、道德的の性質を論じたものとして重要視せられてゐたのだ。かくて兒童學は十八世紀から十九世紀にかけて異

常な進歩を見せ、ルソーの『エミール』は先づ自然に從へと云ふ言葉をもつて教育上の大原則としその後ペスタロッチ、フレーベル、ヘルバルト、モンテソリー出づるに及んで愈々兒童研究は科學的に系統的になつて來た、殊にフレーベルは幼稚園の始祖として少くとも幼稚園の事業に携つてゐる者でその名を知らない者は無い、大阪に於ても毎年四月に市の保育會が主催で同先生の德を稱へ功績を追想せんが爲めフレーベル祭を擧行してゐる。

口之は誠に喜ばしい事で之れも兒童そのものが一般に認められるやうになつたればこそ、斯かるフレーベル祭も毎年我國に於てさへ行はれゝやうになつたのである。古い教育者の考へて居た兒童は……結局子供とは大人の小さいもので大人になる階段に過ぎない……と云ふ簡單なそして極めて粗雜な考へで兒童そのものゝ美も活動も光榮も少しも了解せられてゐなかつた。そして幼稚園の園兒も小學校の生徒と同じ主義、同じ方針の下に殘酷な取扱を受けてゐたのだ。即ち昔の幼稚園では大人の歌ふ唄を歌ひ大人の作つた大人らしい、遊戲が平氣で用ひられてゐたのである。其處に何うして純眞な子供その者の喜びと子供そのものゝ活動が現はれて居たであらうか？驚くべき矛盾である。

× × × ×

口一體人間の本能と云ふものは、吾々人間の種族がその發生の時より今日に至る長い間の必要に應じて生れて來たものであつて、絶對的に不用な本能と云ふものは無い筈であるが、確に今日吾々には不用になつてゐる本能もある。それは現在の社會生活に適應せんが爲めに吾々自身が本能の勢力を轉向し消盡したが爲めに外ならない。茲に於て教育が今日の社會に適應する人間を作る事にありとすれば、教育とは人間の本能を變化せしめて利用して行く事であると云つてもいゝ譯になる。昨今幾多の教育學者が精神分析學上から『本能教育論』を稱へてゐるのはさもある可き事である。

口嬰兒期から兒童前期（三四才から七才まで）の兒童ほど活動的なものはない。此の時代の兒童

の生活は全く活動そのものと云つてもいゝ位である。然らば活動的であるとは如何なる事かと云ふに此の時代の兒童は最も本能を赤裸々に現すと云ふ謂であつて、本能の統御もその方向轉換もその消去も行はれず思ふが儘に——本能の働くが儘に——行動する事を意味するのである。大人が恐ろしく思ふ盜みも、大人の危險に思ふ冒險も彼等は決して躊躇する事はない。

子供は元來野蠻人だと云ふ、小さい野蠻人だと云ふ。尤もな話である。云ふ迄もなく彼等は吾々の先祖が天災と猛獸と他の種族との間にあつて、絶ず戰つてゐる內に出來た本能の遺產を、所謂遺傳の法則によつて短日月の間に反復せねばならぬからである。或る兒童學者は兒童が生後三四年間に學ぶ量は吾々が大學の全科を卒業する迄に學ぶ量よりも多いと云つてゐるが、之は實に至言である。

□そこで此の活動そのものと云ふべき兒童前期の兒童を如何に保育し敎育するかと云ふ問題が、吾々の前に尠からぬ大問題として提出せられる譯であるが、今吾々が眼を一度おのが周圍に馳する時、其處には人の兒の既に搖籃の內より殘酷な扱ひを受けて居るあり、亦幾多喧々たる社會問題は盡きる處もなく起つてゐるのであつて、吾人は是等の問題もその徹底的解決に要するに兒童問題の根本的解決即ち兒童愛護或は兒童保護の普遍的實行にある事を痛切に感ずるものである。

一部識者間には、兒童保護と之が敎育上の立脚點から見て『幼兒の保育は國家の事業として最も大切な事業である。大人になつて惡癖邪習を矯正せんと志すよりは、先づ幼兒の保育を完全に行ふに若くはない、須らく幼兒に對しては義務敎育案の如く義務保育案を立てゝ、國民をしてその子女を必らず幼稚園に送らすべきだ』と說く人々がある。そして外國に於ては既に此の制度を施行してゐる國さへもあると云ふ事だ。

けれども、義務敎育年限の延長さへ今日捗々しく我國の現狀に於ては到底斯かる制度は望まれさうにも思へない。そは吾々の周圍を見ても瞭然たる事で、一町內に果して幾人の幼兒が幼稚園に送

られてゐるかを見るがいゝ。又母親にしても幼稚園を單に兒童を遊ばして呉れる處である位にしか考へて居ない人々が多いのである。

□今我國の幼稚園數を擧げて見ると、僅かに六百五十園で兒童數五萬六千人に過ぎない。之を全國小學校數二萬一千校、八百萬人の小學校兒童に比べて見ると建物に於て三十二分の一弱、兒童に於ては、百二十三分一にも足らない。之を見ても如何に多數の幼兒が大切なる保育時期に放擲して顧みられて居ないかゝ判るであらう。吾人は此の最も露骨に本能を働かす兒童がその最も大切なる時期に於て正常なる保育と適切なる訓練を受け現代文化人たるに必要なる素因を早く養成しておくやうに世の父たり母たる人達に切望園して止まない次第である。

× × × × ×

□扨て幼稚園の建築であるが、吾人は何處迄も此の幼稚園の建築を特殊の建物として取扱ふ必要あると認めるのである。

即ち小學校時代にもなれば、既に肉體的方面も情緒の方面も一通りの發達を遂げて落ち付いてゐるが、幼稚園の兒童は漸く發達の緒に就いた計りで心身共に極めてデリケートである。故にその建築も設備も亦有ゆる器具も自づから之に適するやうに作られなければならぬ。

大阪府下にある幼稚園は約六十(私立も加へて)であるが、勿論その大多數は大阪市内にあつて、然も小學校と同地域内に併置せられてゐるのが多い。そして大部分はその建築法も設備乃至遊戲場も深い考慮を拂はれてゐない。否な全く兒童と云ふものを度外視して建てられてゐるのが殆ど全部だと云つても過言ではあるまい。

今大阪市内の幼稚園に就いて共通の缺點……勿論小學校と獨立して建てられてゐるもの或は極く最近に建てられたものには例外はあるが……を擧げると。

(一)、非衞生的である事
(二)、遊戲具及び遊園設備に乏しい事
(三)、自然物に乏しい事
(四)、美的でない事

等を擧げる事が出來る。恐らく是等は幼稚園として是非考慮を拂つて貰はねばならぬ事であらう。云ふ迄もなく此の外に幾らでも未だ拾ひ出せるかも知れないが菲才にして能く纒め得ないのを遺憾とする。

口扨て右に擧げた是等の個々に就いて聊か說明を加へんにまづ、(イ)非衛生的である第一の理由は園舍の位置が煙塵萬丈の市中に樹てられてゐる事であらう。その結果は通風も採光も暖房も甘く行かない事になる。幼稚園の室内に於ては殊に空氣の清新なるを要する。それも風物に乏しい都會の眞中にあつては駄目である。日本室は西洋室の如く換氣に重きを措く必要はないと云ふが、塵埃が立ち易い缺點があるから室内の床は出來る丈け塵埃の立たないやうな設備が欲しい、コルク床やリノリユーム床などは費用は高くつくが幼稚園には是非欲しいものだ。序でにも一つ云つて置き度い事は運動場(遊園)が煉瓦敷になつてゐるのは、眞に危險であると共に兒童の活動を阻害する事甚だしい、出來得べくんば小砂利或は土壤のグラウンドがいゝ、(ロ)遊戲具及び遊園設備に乏しい事は大阪の幼稚園建築として見逃す可らざる點である。先づ遊戲具であるが(一般の玩具をも含めて)之れは兒童の生命とも云ふべきものであつて、東洋西洋の別なく兒童の居る處には必ず玩具がある。そして玩具は兒童の精神を鍛錬し感情を豊富にし肉體の健康を增進するの効果があるものである。然るに幼稚園に於て滑り臺一臺ない處さへある。何と云ふ迂遠な話であらう。少くとも滑り臺や、シーソー、固定遊動圓木、低い平均臺、安全ボート、回轉車などは備へて欲しい。其他鞦韆、回轉機、金棒なども園によつてはあるが、危險の度が多いやうである。鞦韆の如き煉瓦敷のグラウンドには絶對に止して欲しい。最後に一言したいのは折角是等の遊戲具を備へてゐても、保姆の役人氣質や保姆のつまらぬ感情から單に裝飾品となつてゐて活用せられて居ない樣な幼稚園がチヨイ〳〵ある、斯くの如きは全く愚の骨頂だ。

文化村住宅の記事に就いて

會員　建築士　津田鑿

文化村の住宅に就て種々新聞や雑誌で報道されて居る其の内左の如き記事が眼につき自分は未だ嘴の黄い小僧ではあるが讀んで感じた點を書き綴つて見た勿論之れは議論する氣でもなければ抗議を申込む積りでもなく只若し自分と同感の方でもあれば聊か心強いと思ふのみである從つて此の記事に對し苦情や批評や抗議が出ても答へはせぬ事を前以て御斷して置く。

大字の(一)より(八)は原文の儘で其れに對する感想を小字で顯す事にし終りの方は自分の考である。

(一)建築家は間取りと外觀許りでなく小さな金物とかに就ても考へる事が必要である

苟も建築家と云ふものは其れ以上淺くとも瓦斯、電氣、暖房、水道庭園の一と通りは心得て居るべき筈である。

(二)米國人に家を貸すとき日本家を西洋風に改造してやつたら住家の西洋風なる事を失望した

其れは米國人の御世辭がよいからでそんな事を眞面目に受けて喜ぶ人は御目出度い自己本位のヤンキーが何んで日本の不都合な住宅を衷心から歡迎するであらう。茶室、四阿と云ふ樣なものは別として普通の住宅に採溫其他の諸設備の不完全極まる點は周知の狀態である日本に來たては物珍らしくてよからうが決して永く住めるものではない單に御座なりで勿論惡しく直し過ぎた生半可の洋館よりは塲合によりては相當の日本家は優つた塲合もあらうがそれとても考へものである。

(三)此頃の西洋の新らしい家の窓掛のかけ方などを西洋の家庭雜誌の繪でも見て研究すると宜しい

窓掛にも種々其品質や色彩家具室の様子にも關係する見てこなす力があれば格別時としては悪劣なまねをせぬように丁度外國の賣春婦が頬紅をつけて居るのを見て上流の人が平氣で之れを眞似て居るなぞは笑ふ可き事である。

（四）西洋へ行つた事もなく又西洋へ行つてもうつかり通り過した人は建築家でも住家の事は不確に頭に入つて居る恐れもあります

西洋へ行かなくとも住宅位の材料は我國では相當に間に合ふ。

先輩或は外人に尋ねても書籍を或は相當に設備のある處を調べて又諸先生に教を受けても出來る日本に來て居る洋人建築家が何も態々出掛なくとも在來の建築に澤山の長所がある。

要は之れを應用するのが建築家の手腕だ必ずしも安物の洋風建築を其儘日本人の住宅に當て嵌める必要はないとこれも確かに一理ある又行つて見ても決して悪い事はないが氣候生活の狀態、經濟の方面から之をこなすには又相當の頭が必要である西洋へ行く建築家でも各々其研究す可き目的が定められて行くであらう人間は萬能でないから種類の多い建築全般を通じて見て來る事は到底不可能で住宅を多少疎かにしたとて其の人を責む可きでなからう又充分調べた人もある多くの人が一通りは研究されて居る事は建築家としてそうなくてはならぬ事である例令深くなくとも其處は素人と眼のつけ處が違つて居る平常の苦心は速かに會得する事が出來る。

（五）建築家は自分で家を建てゝ見て其れに住んで見なければならぬ

之は大に御世話樣だ成程料理番は汁の加減を味はつて客に出すであらうが家はそんな手輕には行かぬ他人の註文を受けて一々造つて住んで見て居る間に註文者は數限りない一生に五軒や六軒の家を建てる素人と違ひ月々に落成して行く家には其都度非常な苦心をして居る依頼者の不滿のないようにぶつかる難問題は數限りない其れを研究しつゝ誠意を以て相當頭を痛めて居る住んで見るより一層明かに缺點を覺る積りである決してやり放しではない其れでなければ飯は食へなからうと思ふ紳

屋の白袴でも註文者には相當の滿足を與へてゐる

（六）ドアーの下に靴摺があるが之は足に邪魔になる

米國の組立家屋或は安物の住宅にはないが上等のものにはある戸當りは邪魔であるが戸の透き間から風の洩れ入るのを防ぐ爲めにもなるから一利一害で歐米の家でも其の必要からである無暗に厚くして付けずに先端を丸めて置けば多少不便を減ずる事が出來る。

又片開き戸は手先きが下り勝で床を平坦に張つてあつても摺る心配があるから其の點も考へる必要がある。

（七）堅木の蠟引仕上げは杉や松にペンキを塗るより安い

之れは其れ程安價でない自分は杉や松の節のある木にステインして立派に見せる方が寧ろ安價であると思ふ既に十年前から實行して居る。

（八）建築費貳百圓が高過ぎる七八十圓の家が立派に出來る

之は眞を穿つては居らぬ否百五十圓でも確かに二百五十圓で一寸見た丈けでは大差なく造り得らるゝ構造や外觀室内の飾り加減材料の良否耐久力の如何此等の點甲と乙の比較の結果を待たねばならぬ坪八十五圓でも其れ以下でも單に家は出來る現時の住宅をどうするがよいかは別として同じ椅子式に改めるにしても部屋全部と云ふは尚早で七分三分が關の山構造とても無理に薄べらの洋館にせず既に相當以前から行はれて居る方法で要領を得たものがある其れは内外とも先づ日本風にして置き家根の形に多少の意匠を凝し下見は竪羽目が面白く軒下若干はモルタル塗又は漆喰屋根はスレートの場合は棟を瓦で取り瓦の場合は在來通り内部は節のある木で一向差支なく柱を六尺又は三尺に顯し長押を附ける處は附け又不用の處は其儘棚床も比較的高くする之れは立式の關係であるそうして普通の竿緣天井は洋風の家具に不調和であるから大和張に改める床板は敷物を全部敷込む場合は荒板で差支なく若し敷物の巾を室より中に納める場合は床板は緣甲張にする窓は庇しを充分出し引違ひの高窓とする入口は在來の引違ひ又は開き戸としストーブは石炭或は瓦斯又は電氣の裝置をして木部は凡てステインする之れで窓掛をかけ柱の間は壁の上に竪縞か無地の壁紙或はなるべく家具

に調和する模様の壁紙を張る此方法は實行して居る處が澤山あり相當に落付き折衷としては先づ無難の方で勿論之が必ずしも歸着點と云ふ譯でなく追々嶄新な意匠が顯れて來るであらうが若し此方法にして置けば萬一疊又はコルク板の如きものに改めるにも容易で疊の上に座る事は必ずしも賞めた事ではないが之等は追々と改められゝ事である

要するに現時の住宅は一般に餘程遲れて居る事は事實であるが種々の事情より之は必ずしも住む人造る人を責むる譯にも行かぬ經濟美觀構造に就いて批評は容易であるがソー手易く解決する問題でない未だ研究の餘地は充分ある我國最初の試みとしては不備の點あつても文化村の住宅は繰返す迄もなく確かに成功であると信ずる。

しぐるるや……

……南に低き雲の峯

西歐をめぐりて

加島銀行頭取
星野行則氏夫人　星野須磨子

夫人は去年十一月に神戸を出て、歐洲を廻つて今年の五月に再び日本へ歸られました。記事はその時の思ひ出です。　—記者—

◆私が倫敦に着いて二日目、即ち十二月二十五日夜、クリスマスの祭りの盛んだつたことは——私は前からその事を心待ちにしてゐただけにマダムAに案内あられてセントポール、キヤシードラルに於てその儀式を觀た時は、豫期した事ながら餘りに崇嚴な感じ、餘りに偉大な感じ、そして靜肅な會衆の欣びに充ちた輝しい心持を受取ることが出來た時は、私の心も感激にふるえて言葉に盡せない、いろ〳〵の思ひを一時に享けたことでありました。何千人といふ會衆の一糸亂れず、水を打つたやうな穩やかさ、そして祈りに淨められた面ての美しさ、その人々の前には、遙かに正面の壇上に聖徒の肖像が又重々しく嚴かに揭げられてあり、禮服に身を包んだ監督及び宣教師の人々は又しめやかに親しく會衆に臨んでゐる、その黑いガーマントに十字架のついたサーブレースを下げた立姿が如何に、この場合に相應しく見えましたらう。然うしてその横手に、眞白の衣服に包まれた歌手の少年達を澤山に配して見受けた事は、更に何といふ可憐さと嚴肅さとを添へたものでしたらう、私は天國といふものを想像ばかりでなく、實感する事に於て困難ではありませんでした。それ程にその時は宗教國に於ける平和の感じを深く印象されたのです。

◆大きな、擴い、世界一の教會堂として許されたこの建物からやがて私共が吐き出された時には、門際で澤山の鳩の群れ遊ぶのを見ましたが、私の

心は速くも懐しい故國に趨つて、其處の、天王寺の境内の鳩達を思ひ出したのです。

◆十二月三十一日の夕方、私はホテルの窓から表街を眺めて其處に澤山の人達が一樣に同一の方向を目指して進んでゐることを見た時、私は旅の氣輕さから、又有る限りの好奇心を集めてそれらの人々の後に從ひました。人々は何れも一種の特異な表情で何事かを企んでゐる、それは恰も道化者が舞臺へさし懸る途中のやうに、當然私にはさう思はせるやうに、彼等は一つの面白い玩具(おもちゃ)を手に〳〵持つてゐるのでした、それは赤と白と藍との縞に染め分けた大小幾種もの紙ラッパで、それを大人も子供も只ブー〳〵と吹き鳴らしてゆく私には眞面目な英國民の年中行事の一つだといふその日——大晩日——の催しが興味でした、聞けばその夜は私共の辿り着いたピカデルサーカスの廣場で、之等の集つた市民は年越しをするといふ習慣で、時の十二時を指すや一齊に市中の光りといふ光りは消えてしまう、その三分間の時間に彼等は祈を捧げて一年の最終を送り新たな年を迎ふ——それが英國民の新年を迎へる儀式なのでした同時にその夜は思ひ〳〵の粉裝で、又有らん限りの美しさと賑やかさで、私の宿つたホテルは多くの集つた人々が夜更る迄の舞踏會に疲れ萎えてゐました。

◆私は倫敦に滯在中はいろ〳〵の歷史ある建物を訪ふ事が樂しみでした、マダムツーソーのワックスヴアクでの珍らしい蠟細工の偉人達に接することも、美術館、博物館、動物園、植物園を訪づれることも、殊に私は時間の尠い中から無理に拔けて美術館を訪ふ事を忘れませんでした。それは丁度私が滯在中この建物の中に一つの挿話が織られたからです。

◆それは丁度少し以前に有名なグンセボルの『ブリユーボーイ』が英國人の所有者の手から或る米國の富豪の手へ買ひ取られる約束が成つた、そして人々は永久に遠く彼の繪の少年を他國に送らねばならぬ事になつたのです、で少年は三日間だけナショナルピエーヂアンの一室で自分の國の人々と別れを惜しむ事に成つた結果、人々は毎日引續

きまあごんなに澤山の人達が訪れて來たでせう、然うしてごんなに名殘り惜しい眼をしてゐたことでせう、私は深い綠がゝつた服に碧い澄んだ眼をして優しく上品に描かれてある英國の貴族の少年と、それに對照された群衆の或る一つになつて働く淋しい愛惜の心持とを、無言の裡に力強く美しく感じたことです。

◆主人達の一行が田舍の方へ觀光に行つた時は、私だけはかねて約束のあつたミスター、ラングレイの一家をヨークシャのハダスフイールトに訪ねました、ヨークシャは倫敦の市から七時間ばかりの汽車でゆけるところ、質朴な靜かな景色の中に入て、英國の本當の賢實さ、といふか、或る小都市に住む中流以上の家庭の樣々な暮し向を僞らず見せられた事は、旅の中でも最も收獵の多い、いゝ私の土産でした、

◆マダムラングレイが遺憾なく英國婦人の主婦氣質を見せてくれたことも、生人の妹のエミリーとヒルダがその多分な智識と權威と更に親しみ多い待遇の心に洗ひざらに總をて開放してくれたことも十七になる姪のマゼリーの愛らしく無邪氣に清くあつたことも私は一つ毎に日本婦人のお手本にしていゝ事を澤山に見つけたことでした、その人達が、初めて見る日本婦人の私が珍らしくあつたやうに、既に私の髮が縮れてゐないといふ事が一つの驚異であつたやうに、私にはその家で見出す小さな發見までが、與多く而も優れたものです。

◆或日マダムは私を案內してくれて街の見物に出ました。その日は例日の通りに會社に出た主人は中食に歸る事も分つてゐたし、その上一人きりしか居ない女中の休暇日でもあつたが、朝の九時からマダムは平氣で私を誘つて出ました。然うして十一時半に歸つて即座にマダムは一番の馳走ぶりを見せた、中食の卓を支度したのです。私達の留守の間、大きな肉の塊りとじやが芋はひとりでにこんろの中で燒けてゐました。然して昨夜の裡にちやんと手筈のついてゐたプデイングと簡單なサテドは運ばれ、更に途中で求めた果物と切花は美しい色を添へて食卓の上を飾つたのです。それにパンとコーヒーとを添へたデインナーが誰れの手

も借らずに樂しく明るく、斯して手輕に出來た事は何といふ氣持のいゝ事でありましたらう。家庭内の設備のいゝ事と、人の氣持ちの敏速で無駄なく質素に運ばれる事を、日本の家でも速に廣く眞似たいと思ひます。

◆英國の家庭では贅澤と思はれる富豪の家庭でも彼の生活の形式は簡單で質素な事で意外でした。家屋でも必要以外に大きなものではありません。鑛山王と云はれる程の人の家庭でも料理人と女中一人位ゐの程度なのです。斯うして家庭の繁雜な無駄な時間から割合に自由に放れてある婦人は從つて職業上にも自由な廣い天地を持つてゐるのです。彼地の婦人の社交上によく馴練されてゐること、廣く高い見識に依てよく自己を守つてゐることは、私に羨しゐことでした。

◆或る純粹の眞面目な佛蘭西婦人は、『巴里は私の國ではありません、あれは佛蘭西の巴里ではなく世界の巴里なんです』と云ひました。その意味では、反面に佛蘭西人の鄕土心を語るものかも知れません。佛蘭西婦人は極く家庭的でつゝましくて又地味であるけれども愛らしい人のいゝ心の所有者だと私は感じました。

◆戰後、獨逸の疲弊と極端な險約と人心の緊張とは傳へ聞いてゐた處ですが、さうした中で彼人達の模索する藝術への熱烈な憧れは何といふ眞率な憫れ深いものであつたでせう。一夜覗いた帝國劇場（元の）では私はその事を餘りに悼ましく見せられました。見物する人々の衣服の貧しさは彼の國民全体の苦痛を語つてゐます。然うして彼の食べる慕合ひの食物は、乾からびたパンに薄い鹽肉を挾んだもの、それだけでありました。

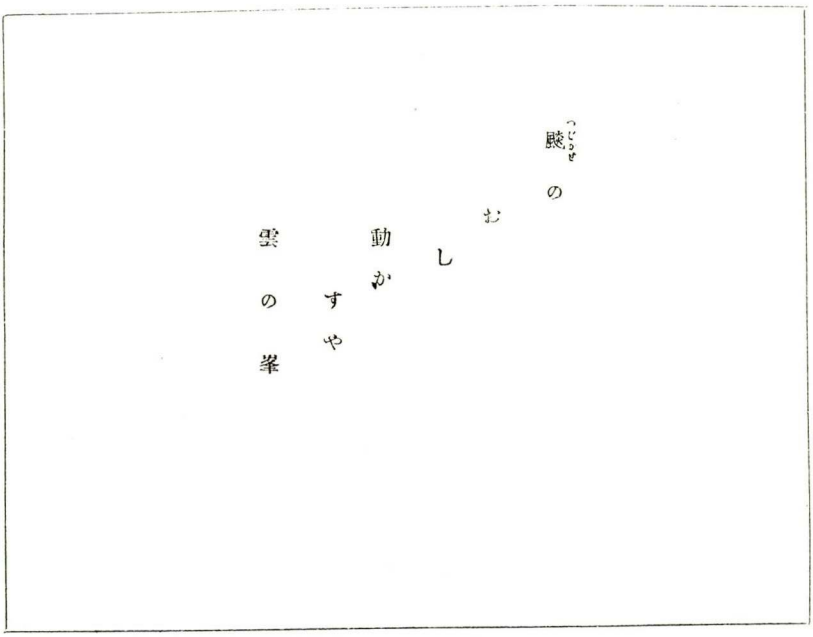
◆旅行中伊太利ローマでの見分は流石にうるほひ深く懷しいものゝ一つでした。二千年前のパンセオンの建物の壯大さ、又世界中に一億五六千萬の信徒を散ばせてゐる聖ピーターの本山など、昔の面影をそのまゝに殘したカタコーム——地下の墓場は當時のネロ皇帝の慘虐をも生きた言葉で語る物怖ろしい歷史でした。更に二千年前の爛熟した文明の紀念であるコロシエームの大劇場は、何といふ驚くべき廣大なものでありましたらう。

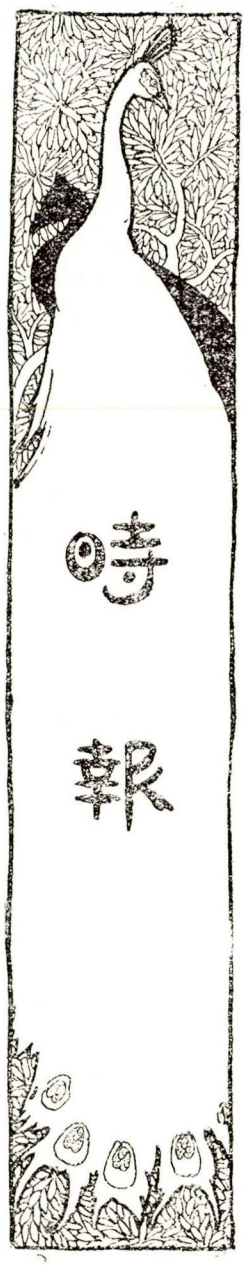
◆再び私が英京迄引き返した後には、巴里で見受けた諸種の流行風俗は漸く倫敦に影ばかり忍び入つて美しい貴婦人達に近寄つた時でした。

◆この傾向は更に西して海を渡りニューヨークから市俄古からローサンゼルスから桑港へとその順序は面白いばかりに私の旅行と平行して移りました。巴里はやはり世界の巴里と云へることです。

◆禁酒令を出した米國では兎にも角にも公の席上では酒を見ません。一通りの努力では行へないことが、兎も角も法の力で行はれてをりました。

そして米國と云ふところは、驚くばかりに只管に文明進歩の實地證績をあげるところだと思はせることでした。人々の敏活さ、更に婦人の活動力に充ちてゐること、それは今迄の他國にも比較されぬ程に旺んでした。教育も商業も社會事業も、社交も建築も、すべては新しく思ひのまゝに脈を打つてゐるのです。古きを捨てることは、この國では尠しも困難ではない事を思はせます。然うしてその代表として無線電話機が他の何れの國よりも早く進んで、既に一般に實地の用に充てられてゐることは驚くより外はありません。





○府廳舍設計募集

大阪府廳設計圖案懸賞募集に就いては本誌前號に紹介せしが其後該規程に關する追加及び質疑應答事項左の通り決定せりと。

追加變更事項

一、敷地測量圖の東正面の道路は都市計畫路線二等大路第一類第五號幅員十間とす（敷地測量圖に於ける東面道路幅七、六間を十間とす）

質疑應答事項

（問）平面略圖に本館及別館と區別せり之は是非共兩者を區分する必要あるや又本館内に別館を入れて不可なるや

（答）本館と別館とは區分する必要あり

（問）一般職員の食堂は地階食堂を使用するものなるや又賣店等の必要なきか

（答）地階の食堂は一般公衆用とす尙職員食堂及賣店は坪數の許す範圍内にかて適宜設くるも差支なし

（問）審査員の氏名を聞ふ

（答）追て發表す

（問）各室所要坪數は僅少の減少をも絕對に許さゝるや

（答）多少の增減は差支なし

（問）各平面間取略圖に於て其輪廓變更は出來得るものなるか

（答）適宜考案すべし

（問）東正面側の街路は都市計畫に依り道幅の擴張の豫定なきや

（答）東正面側の街路は都市計畫事業線二等大路第一類第五號幅員十間に相當し擴張するも敷地境界線には變更なし

（問）松並木は東面及南面共總て保存すべきものなるか又は何れかの一方を保存し或は設計の都合にて取捨自由なるものか

（答）松並木は南面及東面共保存するものとす

（問）敷地の西側及北側は將來道路を設くる豫定ならざるや若し設くるとせば道幅は約何間なるか

（答）道路を設くる豫定なし

（問）四面立面圖とは本館及別館共箇々の四面立面圖なるか

（答）本館別館を一体としたるもの、四面立面圖なり

（問）市街地建築物法施行令第四條に依り高さの制限あれ共敷地は大阪城の外濠に面するを以て何尺位迄の規定高の超過差支なきか

（答）規程高の超過を許さず

（問）東南角を正面入口となすは規定違反なるか又は差支なきか

（答）正面入口は東側壁に限る

以　上

× × ×



會合

○第五部出品委員會

△日　時　六月二十六日午后五時卅分—九時

△會　場　大江ビルヂング大洋軒

△出席者　吉木、小笠原、有山、久保田、布袋、熊取谷、重枝、森下代、野澤代、西谷(書記)

△議　事　一、出品勸誘に付各委員分擔して勸誘することに決し分擔部類を決定す

一、其他出品に關し種々協議す

○設備委員會

△日　時　六月二十七日午後八時—九時半

△會　場　大江ビルヂング大洋軒

△出席者　波江、小笠原、舟橋、有山、長田、小川、呼子、池田、西谷(書記)

△議　事　道路變更、賣店建築、活動寫眞館、本館內外裝飾及停留所附近裝飾、音樂堂建築其他會場設備に關し協定せり

○幹事會

△日　時　七月五日午後六時卅分—八時

△會　場　本協會々議室

△出席者　葛野、波江、舟橋、吉木、瀨戸小笠原、西谷(書記)大谷(書記)

△議　事　本館其他火災保險の件、餘興費の件、賣店建築費の件、音樂堂噴水等の件、宣傳費の件、資金の件に付協議す

○理事會

△日　時　七月五日午後五時卅分—六時卅分

△會　場　本協會會議室

△出席者　橫濱、內藤、野呂、舟橋、吉木瀨戸、小笠原、西谷(書記)

△議　事　一、會員銓衡

一、三重縣教育會及四日市教育會主催學制頒布滿五十年記念文化展覽會へ規格統一資料出品方の件其他種々協議ありれり

○設備委員會

△日　時　七月七日午後六時—八時

△會　場　本協會々議室

△出席者　舟橋、小川、呼子、小笠原、西谷(書記)

△議　事　一、正門會場內外裝飾、停留場

前の裝飾の件　餘興に關する件に付協議し裝飾考案に付ては小川委員に餘興中活動寫眞に付ては呼子委員擔當して取調べのことに決す

○第二部第三部出品委員會

△日　時　七月十日午後五時三十分―八時
△會　場　本協會々議室
△出席者　宗、竹腰、中西、野呂、日高、小笠原、西谷（書記）、大谷（書記）
△議　事　圖面及模型並に史料參考品の陳列物及陳列方法に付協定せり

○例　會

△日　時　七月十七日午後六時卅分―九時卅分
△會　場　大江ビルヂング大集會室
△出席者
講演者　岩田成實氏、置塩章氏
會　員　阪井、岡本、小川、能村、前內、葛野、園部、宮本、武田、小西、中村、池村、大原、菅、松本、小寺、森、鈴木、中川、長澤、坪井、高岡、中村源、尾田、佐藤、中川辰、谷口、片岡、小笠原、竹腰、中西、西谷（書記）、清川（書記）
△記　事　一、定刻となるや內藤主記理事長に代り開會を宣し直に同主記より會務報告あり次に葛野幹事長より博覽會準備經過に付報告あり例會終了休憩茶菓を饗す
二、內藤主記立つて大阪市役所土木部長工學士岩田成實氏を紹介し同氏登壇歐米視察雜感の長講演あり次に內藤主記より兵庫縣技師工學士置塩章氏を紹介し同氏の歐米視察談として歐米の住宅其他建築に關し長時間の講演ありて後片岡副會頭より謝辭を述べ散會せり

會　務

○會員鉦衡

退會　會員エドウヰン、ポンター

○新入會員

（普通贊助員）　中村源太郎君
（普通贊助員）　尾田大和君

○住所移轉

武安笑吾君、廣島縣加茂郡早田原村
酒井祐之助君、東京市芝區白金今里町五
時田泰三郎君、岡山市七日市町山陽中央
水電岡山變電建築場
松浦松市君、京都第十六師團經理部
藤木正一君、大阪市南區天王寺松ヶ鼻町
五四六八
若田久作君、大阪市北區上福島一丁目四
七三山岸芳太郎方
久留弘文君、大連市紀伊町三四高岡久留
工務所
佐藤平輔君、大阪市西區靱南通五ノ一
今林彦太郎君、兵庫縣武庫郡精道村濱芦
屋伊執講田
中川彌八君、兵庫縣武庫郡尼ヶ崎市竹谷
新田村一〇七ノ三
森西龍太郎君、大阪市北區本庄黒崎町一
區廿九
金剌成太郎君、堺市大阪監獄建築場
谷口憲一君、大阪西區江ノ子島府廳都市
計畫課內
高村經悲君、神戸市兵庫縣廳都市計畫課
佐藤清八君、大阪府下東成郡榎本村放出
一〇〇二
白石藤四郎君、東京府下荏原郡大崎町字

下大崎三三五

小枝實君、大阪市外小阪村樟蔭高等女學校前再生醫院方

船山長雄君、大阪市西區八幡屋町二一五船山建築事務所

大村清君、大阪市西區春日出町北港住宅五三ノ二

橋本舜介君、大阪府下西成都粉濱村新家七五一

友澤淺繩君、大阪市西野田今開町五六六

渡邊清四郎方

小村清三郎君、大阪市西區九條中通二ノ二矢部工業事務所内

森川喜之助君、京都市上京區京都府警察部監督課

○寄贈圖書

住宅　七號　住宅改良會

建築雜誌　六號　建築學會

會報　第四十四號　日本ポルトランドセメント同業會

生活ト住宅　第二號　生活ト住宅社

文化住宅　あめりかや

經濟資料　七號　東亞經濟調査會

建築世界　七號　同社

工業評論　七號　工業評論社

帝國鐵道協會々報　六就　同協會

家のしるべ　七號　家のしるべ社

國民經濟雜誌　七號　神戸高等商業學校

士木建築　七號　日本實業興信新報

電氣學會雜誌　七號　同學會

工業の友　七號　工手學校

滿洲建築協會雜誌　六號　同協會

新住宅　七號　洪洋社

庭園　六號　庭園協會設計部

日本建築士會月報　日本建築士會

商業及經濟研究　七號　大阪高等商業學校

通俗衛生　六號　大阪府衛生局

都市建築研究會々報　二號　都市建築研究會

都市公論　第七號　都市研究會

朝鮮建築　第一號　朝鮮建築會

通商彙報　第七號　府立商品陳列所

電氣評論　第七號　電氣評論社

役員及職員

副會頭　片岡安
理事　小笠原一勉（理事長）
理事　横濱銅（常務）
理事　吉木久吉
理事　竹腰健三（編輯）
理事　中西甚作（編輯）
理事　内藤太郎（主記）
理事　野呂長四郎（編輯）
理事　松本禹象
理事　舟橋喜一
理事瀬戸文吾（主計）
書記　江村郊邨（時報主任）
（庶務）西谷節
（庶務）清川伊佐

會員	二三九
名譽贊助員	六七
特別贊助員	二二
合計（六月二十日現在）	三六〇
會員（地方）	八一
終身贊助員	五五
普通贊助員	三九〇
	八四四

臨時博覽會部（住宅改造博覽會）

會長　片岡安
幹事長　葛野壯一郎
常務幹事　波江悌夫
常務幹事　小笠原銅
幹事　木久吉
幹事　松本禹象
幹事　舟橋喜一
幹事　瀬戸文吾
書記　西谷節

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓

特別頁モ料金一定シアリ御照會アリ度シ

大正十一年七月三十一日印刷（毎月壹回）
大正十一年八月一日發行（一日發行）

大阪市外中津町下三番一九八番地ノ一
發行兼編輯人　江村恒一
大阪市東區內淡路町一丁目卅一番地
印刷兼印刷人　大阪活版所
大阪市北區絹笠町九
大江ビルヂング三十七號室
發行所　日本建築協會
電話北四一九一番
振替口座大阪三九九七五
大阪市西區京町堀羽子板橋北
特約販賣店　柳々堂書店
電話（土佐堀二四四〇番）
振替口座二〇八四番

住宅改造博覽會記事

住宅改造博覽會記事

一、本會の出陳すべき實物住宅に就ては其設計の詳細を改めて報告する考へにて目下寄稿中なるも大體は昨年來懸賞にて募集したる當選圖案を主體とし之を實施に適合する樣取捨按排して改案し本年四月中旬審査員總會理事會幹事會の聯合調査會にて決定したるものなり最初十戸を建築する筈なりしも建築費豫算の都合上八戸に改定し前號に報告したる通り已に其建築に着手し目下大部分建上り瓦葺に掛れり

一、本月に入り會務其他の事項は左の如し

陳列本館並に實物住宅は何れも建築中に付其工事中に係る火災保險を契約せり

博覽會開會中の餘興は活動寫眞（晝間映寫の新しき試み）を中心とし角力菊花壇等の設備をなす積にて目下設備掛にて種々計畫中なるが更に又住宅改造に關する新らしき家庭を中心とする一種の劇を開催せんかとの考案もあり、賣店建築に關しては洋食和食堂を初めとして各種賣店經營を勸誘中なり

本會開催の宣傳は宣傳掛を設き其方法を考究し開會前に於ける一般宣傳は八月に入り開始し『ポスター』の配布、電車内の廣告、各新聞紙上に記事掲載等をなすことゝし續て愈開會に切迫して急激に宣傳し更に開會中閉會前等可然時機に臨み順次適切なる宣傳方法をなすことに協議せり。

第一部出品に屬する本會出陳以外の實物住宅は目下順次起工中なり

第二部史料參考品第三部圖面模型の出品に關しては委員會を再三開催し史料參考品としては古代より現世期に至る日本及外國の住宅圖を掲出し之に其時代の家庭用品等を蒐集配列する方針を取り目下其準備中なり

圖面模型に關しては本會の募集したる懸賞當選圖案等を出陳し之か五十分の一の模型を製作陳列し尚

博覽會場住宅地及實物住宅の全模型をも製作出陳することの準備に取掛れり
第四部出品に屬する美術工藝品の出品は目下夫々勸誘中なり
第五部出品に屬する建築材料及器具機械は之を十四類に分ち其各部を委員にて分擔し八月中に全部出品の手續を完了せしむる意氣込にて準備中なり
一、本會經費に關する寄附金は目下專ら會員を初め其他未申込者に勸誘中なるか本日までの寄付者は左の通りとす

日本建築協會主催 住宅改造博覽會寄附者第一回報告 （イロハ順）

一金五千圓也	阪神急行電鐵株式會社	
一金五千圓也	日本土木株式會社	
一金五千圓也	大林義雄	
一金五千圓也	片岡安	
一金五千圓也	竹中藤右衛門	
一金五千圓也	株式會社	松村組
一金五千圓也	株式會社	鴻池組
一金五千圓也	合資會社	清水組
一金參千圓也	合名會社	池田勘藏
一金參千圓也		橋木組

東京建鐵株式會社　一金參千圓也
合資會社　錢高組　一金參千圓也
株式會社　中島組　一金貳千圓也
長瀨兵馬　一金貳千圓也
淺野セメント株式會社　一金貳千圓也
株式會社　安藤組大阪出張所　一金貳千圓也
佐伯與之吉　一金貳千圓也
木村音右衛門　一金壹千圓也
日本ペイント製造株式會社　一金壹千圓也
日本エレベーター製造株式會社　一金壹千圓也
日本石綿盤製造株式會社　一金壹千圓也
日本水道衛生工事株式會社　一金壹千圓也
豊國セメント株式會社　一金壹千圓也
細野濱吉　一金壹千圓也
米國貿易會社　一金壹千圓也
大阪窯業株式會社　一金壹千圓也

一金壹千圓也　大阪暖房商會　菅谷元治
一金壹千圓也　大阪電氣商會　菅谷元治
一金壹千圓也　片岡建築事務所
一金壹千圓也　横河工務所
一金壹千圓也　株式會社　大丸呉服店
一金壹千圓也　合資會社　高田商會大阪支店
一金壹千圓也　株式會社　高島屋呉服店大阪支店
一金壹千圓也　合資會社　内外木工所　内海鶴松
一金壹千圓也　久保田種吉
一金壹千圓也　山本組山本辰五郎
一金壹千圓也　松尾和助
一金壹千圓也　有山福重郎
一金壹千圓也　淺野スレート株式會社
一金壹千圓也　作山鐵工所
一金壹千圓也　株式會社　三越呉服店大阪支店

一金壹千圓也　須賀豊次郎
一金五百圓也　東洋リノリユーム株式會社
一金五百圓也　岡町住宅經營株式會社
一金五百圓也　葛野壯一郎
一金五百圓也　高砂工業株式會社大阪出張所
一金五百圓也　合名會社田中タイリング商會
一金五百圓也　熊取谷熊次郎
一金五百圓也　合資會社矢橋大理石商店
一金五百圓也　淺海治平
一金五百圓也　由多加織株式會社
一金五百圓也　森下新造
一金五百圓也　鈴木製作所
一金參百圓也　石川屋岡本工務店
一金參百圓也　日本電氣株式會社大阪支店
一金參百圓也　東亞ペイント製造株式會社
一金參百圓也　大野正

一金參百圓也　葛城理三郎
一金參百圓也　淡陶株式會社支店
一金參百圓也　中川辰藏
一金參百圓也　宇野澤組スティンド硝子製作所
一金參百圓也　八尾竹治郎
一金參百圓也　山谷洋家具合資會社
一金參百圓也　中松組松本泰輔
一金參百圓也　小西兼吉
一金參百圓也　株式會社サクラ工業所
一金參百圓也　商工信託株式會社
一金參百圓也　品川白煉瓦製造株式會社大阪支店
一金參百圓也　清水福太郎
一金貳百五拾圓也　尾張屋商店仲井榮三郎
一金貳百五拾圓也　合資會社河瀨商店大阪支店
一金貳百五拾圓也　龜井商店
一金貳百五拾圓也　吉田鹿之助

一金貳百圓也　畑中秀次郎
一金貳百圓也　株式會社原安商會大阪支店
一金貳百圓也　布袋惣平
一金貳百圓也　豊田清三郎
一金貳百圓也　東洋電業株式會社大阪支店
一金貳百圓也　千葉喜代治
一金貳百圓也　沖電氣株式會社
一金貳百圓也　辰己吉之助
一金貳百圓也　中島辰造
一金貳百圓也　野村亥之助
一金貳百圓也　久保田國太郎
一金貳百圓也　山縣常吉
一金貳百圓也　山田組山田元二
一金貳百圓也　前田芳太郎
一金貳百圓也　株式會社あめりか屋大阪出張所
一金貳百圓也　木村松太郎

一金壹百五拾圓也

一金壹百五拾圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

一金壹百圓也

小笠原鈅

山本窯業商店　山本潔

伊藤與三郎

伊藤源治郎

泉吉次郎

石渡清太郎

濱本勘三郎

日本建築紙工株式會社大阪出張所

日本鉛管製造株會社大阪支店

東洋陶器株式會社

株式會社富島組

小川吉次

大阪硅藻土商會　喜多川孝經

株式會社奥田畑中石材共同販賣所

岡本義隆

岡本吉造

一金壹百圓也　渡邊建築事務所
一金壹百圓也　和井田商事株式會社
一金壹百圓也　瓦株式會社
一金壹百圓也　龜谷開作
一金壹百圓也　關西ペイント株式會社
一金壹百圓也　吉本伊兵衛
一金壹百圓也　橫濱勉
一金壹百圓也　吉木久吉
一金壹百圓也　高松菊治郎
一金壹百圓也　男野野安治郎
一金壹百圓也　內藤太郎
一金壹百圓也　梅野爲吉
一金壹百圓也　株式會社野口組
一金壹百圓也　矢野松太郎
一金壹百圓也　八木清藏
一金壹百圓也　前田德松

一金壹百圓也　桝谷寅吉
一金壹百圓也　前島電氣商會
一金壹百圓也　福田拾松
一金壹百圓也　藤原榮吉
一金壹百圓也　小阪井嘉八
一金壹百圓也　合資會社榮進
一金壹百圓也　寺田久吉
一金壹百圓也　赤田龜吉
一金壹百圓也　靑木榮太郎
一金壹百圓也　齊本義之助
一金壹百圓也　佐村木勝吉
一金壹百圓也　北端兵吉
一金壹百圓也　北木島石材株式會社大阪出張所
一金壹百圓也　三木一二
一金壹百圓也　宮和一郎
一金壹百圓也　道下房吉

一金壹百圓也　森琴川
一金壹百圓也　森上浩行
一金壹百圓也　瀨戸文吾
一金六拾圓也　長谷部鋭吉
一金六拾圓也　竹腰健造
一金六拾圓也　中西甚作
一金六拾圓也　野呂長四郎
一金五拾圓也　河野助市
一金五拾圓也　久保田繁亮
一金五拾圓也　栗田種松
一金五拾圓也　前阪勝三
一金五拾圓也　松本政次郎
一金五拾圓也　柴田四郎
一金拾圓也　伊東宗太郎
一金參拾圓也　中島工作所
一金拾圓也　小川安一郎

一金拾圓也　和田貞次郎
一金拾圓也　長澤作榮
一金拾圓也　小林悉
一金拾圓也　小松靜
一金拾圓也　荒川義夫
一金七圓五拾錢也　大須賀巖
一金五圓也　植竹春重
一金五圓也　前内文二郎
一金五圓也　藤澤安太郎
一金參圓也　田邊滿一
一金貳圓也　石川寛三

總計金拾萬九千參百六拾七圓五拾錢也

●第五集　第八号　掲載広告一覧（掲載順）

川北電気企業社
日本輸送機製作所
日本セメント防水剤製造所大阪出張所
三益社
浅海商店
出浦建築事務所
大阪建築所
新海建築工務所
小笠原建築事務所
渡辺建築事務所
葛野建築事務所
片岡建築事務所
片岡松井建築事務所
横河工務所
竹内建築事務所
宗建築事務所
国枝工務所

柳下建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
舟橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
横浜松下建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
日本土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
竹中工務店
長瀬組
中川辰蔵

佐伯工務所
野村亥之助
久保田組
熊取谷熊次郎
山本組
松村組
小西組
藤木正一
鴻池組
駒井喜兵衛
安藤組大阪出張所
有山組
清水組大阪支店
モリホン建築社
銭高組
山縣組
清水工務店

山崎建築事務所
田村東京事務所
田村神戸事務所
久原鉱業大阪出張所
山田大理石製作所
矢橋商店
沖電気
高田商会
須賀商会
内外土木建築材料
栄進社
松尾和助本店
山本窯業商店
萩原煖房工務所
新田ベニヤ製造所
南満鉱業
砂崎
大野式特許品営業所
東京建鉄

河村青写真調製所
宇野沢組ステインド硝子製作所
コルク工業
鈴木製作所
大阪煖房商会
大阪電気商会
インペルメアビリット
関西ステンドグラス製作所
日本木材工芸
都市工業
大理石工業
川崎工場
北木島石材大阪出張所
ホーン
城口汚水処理研究所
吉田鉄工所
田中タイリング商会
淡陶
実野商会

日本トラスコン鋼材
大阪耐火リノリウム工業
住友製銅販売店
住友東京販売店
田中源太郎商店
極東硝子工業